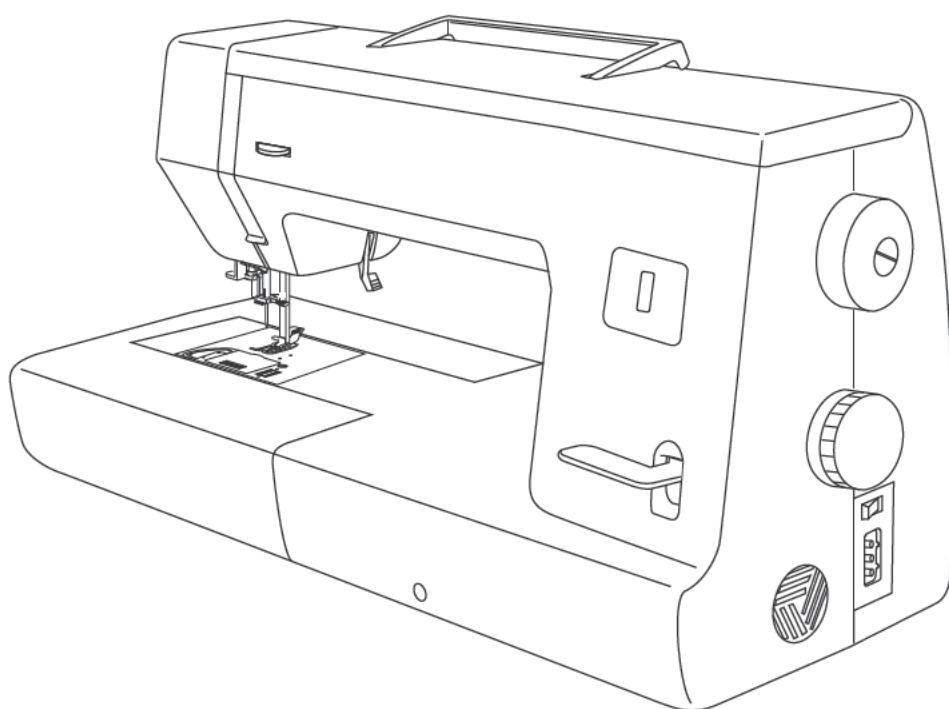


取扱説明書

型式：BB-986 シリーズ

Long Arm Sewing Machine



お買い上げいただきありがとうございます。



株式会社 アックスヤマザキ



電気製品は安全のための注意事項を守らなければ、火災や人身事故になる場合がございます。
この「取扱説明書」には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いを示しています。
この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、この製品を安全にご使用ください。

また、お読みになった後はいつでも見る事が出来るように、必ず保管してください。

お使いになる前にお読みください

安全にご使用いただくために	-----	2～3
取り扱いのお願い	-----	3
補助テーブル	-----	4
付属品	-----	4
トップカバー	-----	4
各部の名まえ	-----	5～6

操作の仕かた

模様選択ダイヤル	-----	6
ドロップフィード（送り歯高さ切り替え）	-----	7
押え圧力調節ダイヤル	-----	7
手持ちハンドル	-----	8
押え上げレバー	-----	8
押えの取り外しかた・取り付けかた	-----	9
ひざ上げレバー	-----	9
押えホルダーの取り外しかた・取り付けかた	-----	10
電源を入れる前に	-----	10
電源を入れる	-----	11

縫う前の準備

ボビンの取り出しかた	-----	11
下糸の巻きかた	-----	12～13
上糸のかけかた	-----	13～14
針穴糸通し器	-----	15
下糸のセット	-----	16
下糸の引き上げかた	-----	17

縫ってみる <基本編>

針の位置を変える	-----	18
縫い目の長さを変える	-----	18
直線縫い	-----	19～20
返し縫い	-----	21
針、糸、生地の関係	-----	21
糸調子の合わせかた	-----	22
縫い方向を変える	-----	23
厚地や段差を縫う	-----	23
伸縮生地を縫う	-----	23

縫ってみる <応用編>

縁かがり縫い	-----	24
スモッキング	-----	25
アップリケ	-----	25
パッチワーク（つき合わせ）	-----	26
ゴムテープ付け	-----	26
スカラップ	-----	27
直線縫いガイド	-----	27
まつり縫い（ブラインドステッチ）	-----	28
ファスナー付け＜突き合わせ＞	-----	29
ファスナー付け＜脇あき＞	-----	30～31
オープントウキルト押え	-----	31～32
1/4 インチキルト押え	-----	33
ボタンホール縫い	-----	34～35

お手入れ

針の取り替えかた	-----	36
正しい針の選びかた	-----	36
ボビンケースのそうじ	-----	37～38

その他

縫い模様一覧及び詳細	-----	39～40
困ったときは	-----	41～42
仕様	-----	42
別売りアタッチメント	-----	43
修理サービス要領	-----	44
お問い合わせまたはご相談先	-----	44
サービス工場のご案内	-----	44
MEMO	-----	45
保証書	-----	終

安全にご使用いただくために

ご使用の前に「安全上のご注意」を必ず読み、正しく安全にご使用ください。

この取扱説明書および商品には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。以下の表示を無視して誤った取り扱いをすることにより生じる内容を、次のように区分しています。

以下の内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

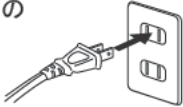
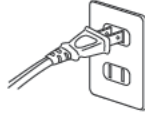
- このミシンは日本国内向け家庭用です。For use in JAPAN only. 国外での使用および職業用としてご使用になった場合の保証は出来ません。
- 仕様および外観は品質改善のため、予告なく変更することがあることをご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますのでご了承ください。

 警告	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う恐れがある内容を示しています。	 注意	この表示を無視して誤った使い方をすると、人がケガをしたり財産に損害が生じる恐れがある内容を示しています。
---	---	---	--

この説明書で使用している絵文字の意味は次の通りです。

危険性を促す記号	行為を「禁止」する記号	行為を「指示」する記号
 火災の原因になります  感電の危険性があります  ケガの危険性があります	 禁止  分解禁止	 必ずすること  電源プラグを抜く

 注意	   ケガや財産に損害が生じる恐れがあります。	
 	・ミシンを不安定な場所に置かないでください。 ・動作中に、はずみ車・針・天びんに手を触れないでください。 手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。 ・曲った針は使わないでください。 針が折れ、ケガの原因になります。 ・ボビンカバーを開けたままミシンを操作しないでください。 ・縫製中、生地を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。 手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。	 ・電源コードはミシン本体やフットコントローラーに巻き付けしないでください。 コードの断線や接触不良による感電の原因になります。 ・濡れた手で電源コードプラグを抜き差ししないでください。 感電の原因になります。  ・幼児の手が届かない場所に保管してください。 針や押えなどの突起でケガの原因となります。  ・糸をセットするときやミシンの手入れを行うときは電源スイッチを『OFF』にしてください。 作業途中にミシンが動く恐れがありケガの原因となります。
 	・火の気のあるもののそばでは使用しないでください。 (火の消えていないタバコ、ロウソクなど) 火災の原因になります。 ・ミシン本体の換気口をふさがないでください。 ・換気口は、必ず壁から 30cm 以上離してご使用ください。 また、換気口に糸くずやホコリが溜まらないようにしてください。 火災の原因になります。 ・スプレー製品などをご使用の部屋では、使用しないでください。 スプレーへの引火によるヤケド・火災の原因になります。	 ・ミシンの操作中はミシンから目を離さないでください。 ・交換した針を放置しないでください。 ・お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するときは特に安全に注意し、お子様から目を離さないでください。 ・針、押え、アタッチメントを交換するときは、電源コードプラグをコンセントから抜いてください。 作業途中にミシンが動く恐れがありケガの原因となります。 ・屋外や直射日光のあたる場所、高温多湿な環境、寒い場所での使用は避けてください。 部品の劣化や変形、正常に作動しないことがあります。 ・ミシン本体は必ず手持ちハンドルとミシン本体を持って、持ち運びをしてください。 手持ちハンドルだけを持ったり他の部分を持つと破損したり、滑って落とし、ケガの原因になります。
 	・ミシンを使用しないときやミシンから離れたり、使用を中断するときはコンセントから電源コードプラグを抜いてください。 絶縁劣化、漏電などによる火災の原因になります。	 ・ミシン本体を持ち運びするときは、急激・不用意な動作をしないでください。 ケガの原因になります。 ・電源コードを引き抜くときは電源コードプラグを持って抜き差ししてください。 コードの断線や接触不良による感電の原因になります。

 警告		  死亡、火災、感電の恐れがあります。	
   火災・感電の原因となります。	一般家庭用電源 AC100V の電源以外では絶対に使用しないでください。 AC100V 50/60Hz 		ミシンの中に水や異物が入ったときは、電源スイッチを『OFF』にし、電源コードプラグをコンセントから抜いてください。 
	電源コードを傷つけたり、折り曲げ、結び、ねじれ、加工はしないでください。 		発煙や異臭、異音などの異常が発生したら電源スイッチを『OFF』にし、電源コードプラグをコンセントから抜いてください。 
	傷付いたり、溶けて線がむき出しになったコードを使わないでください。 *コードが傷付いた場合は販売店・サービスセンターにて純正部品をお買い求めください。 		落としたり正常に作動しないときは電源コードプラグをコンセントから抜いてください。 
	電源コードに机や椅子の脚など、重いものを載せないでください。 	火災・感電の原因となります。 ご販売店・サービスセンターに ご連絡ください。	電源コードプラグをコンセントにしっかり差し込んでください。 
	延長コードや分岐コンセントを使用したタコ足配線はしないでください。 		ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。

取り扱いのお願い

永くご使用いただくため、次のことを守ってください。

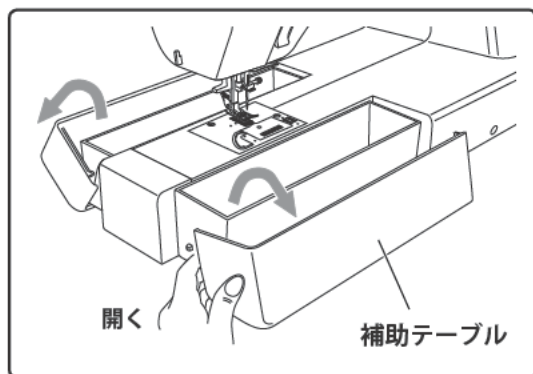
縫製以外や業務用、職業用の目的には、ご使用にならないでください。極度の部品摩耗や破損につながります。

 注意	  ケガやミシンの故障が発生する恐れがあります。
--	--

- 曲がった針を使わない
曲がった針を使うと、次のようなケガや部品の損傷につながります。
・針穴に刺さらず、折れた針が飛び、ケガの原因となります。 ・押えや針板、ポビンケースに傷を付け、糸調子が合わなくなります。
- このミシンで縫えないもの
次のものはこのミシンでは縫えません。針やモーターなどに過度の負担をかけ、故障の原因になるだけでなく、針折れなどの原因にもなります。
・木、プラスチック、金属などの板・ぬれた生地、粗い網（漁網など） ・はずみ車を手で回しても針が刺さりにくい生地、厚過ぎる生地
- 保管時の結露（つゆつき）について
寒いところから、暖かい室内に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋では、本体の表面や内部に結露（つゆつき）が起ることがあります。結露がなくなるまで、電源コードプラグをコンセント（家庭用電源）に接続しないでください。そのままお使いになると感電や誤動作・故障の原因になります。
- 直射日光・熱気をさける
直射日光が当たる場所や熱器具の近くには置かないでください。プラスチックのカバー部分や内部部品に変色・変形や部品劣化などの悪い影響を与えますのでご注意ください。
- 糸絡みのとき、糸・生地を引っばらない
針や部品の破損します。
- ミシン表面のお手入れ
プラスチック部分の汚れがひどいときは、中性洗剤をぬるま湯に薄め、布に浸してかたく絞り、乾いた布で仕上げてください。
・ベンジン・シンナー・ワックスなどで拭かないでください。
- 説明書で指定された以外の分解・改造はしない
ネジ類の締め忘れやゆるみにより、針折れや部品の破損の原因となります。
- 長期間ご使用にならないとき
長期間ご使用にならないと、油の乾燥・固着などで機能に支障をきたす場合があります。時々、ミシンを動かしてください。油の固着を防ぐことができます。
- ミシンの上に物を載せない / ミシンの上に乗らない
ミシンに負担がかかり故障の原因になるだけでなく、ミシンが倒れたりしてケガの原因にもつながります。

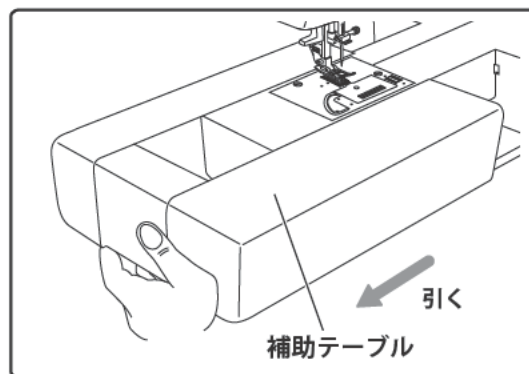
補助テーブル

● 付属品の出し入れ



補助テーブルを開くと付属品の出し入れができます。

● フリーアーム



ズボンの裾上げなど筒物を縫うときは、補助テーブルを左に引いて外します。

付属品

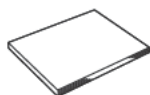


注意



付属品でお子様がケガをする恐れがあります。
保管には充分ご注意ください。

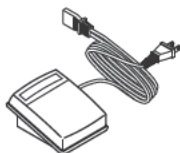
● ミシンと同梱されている付属品



取扱説明書 (本書)



ミシンカバー



フットコントローラー

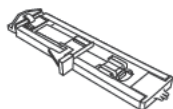


ひざ上げレバー

● 補助テーブル内の付属品



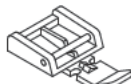
ジグザグ押え
(本体にセット)



ボタンホール押え



縁かがり押え



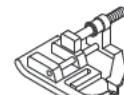
ファスナー付け押え



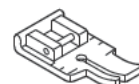
サテン押え
(透明)



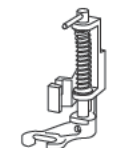
直線押え



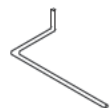
まつり縫い押え



1/4 インチキルト押え



オープントゥ
キルト押え



直線縫いガイド



針板ドライバー



リッパー
(ブラシキャップ付)



糸こま押え
(大・小各1個)



ドライバー
(大・小各1本)



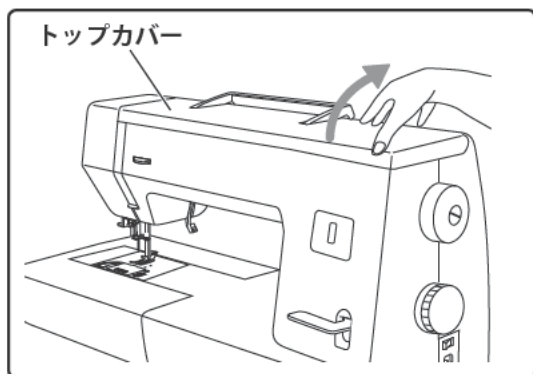
家庭用ミシン針 5本

* 16 番: 1 本
14 番: 2 本
11 番: 2 本

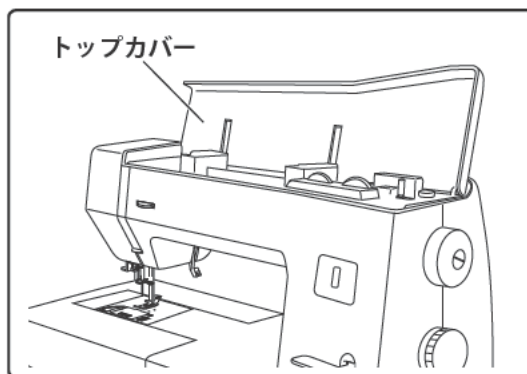


* 家庭用プラスチックボビン
(11.5 × 20.5mm)
ボビン 3個

トップカバー



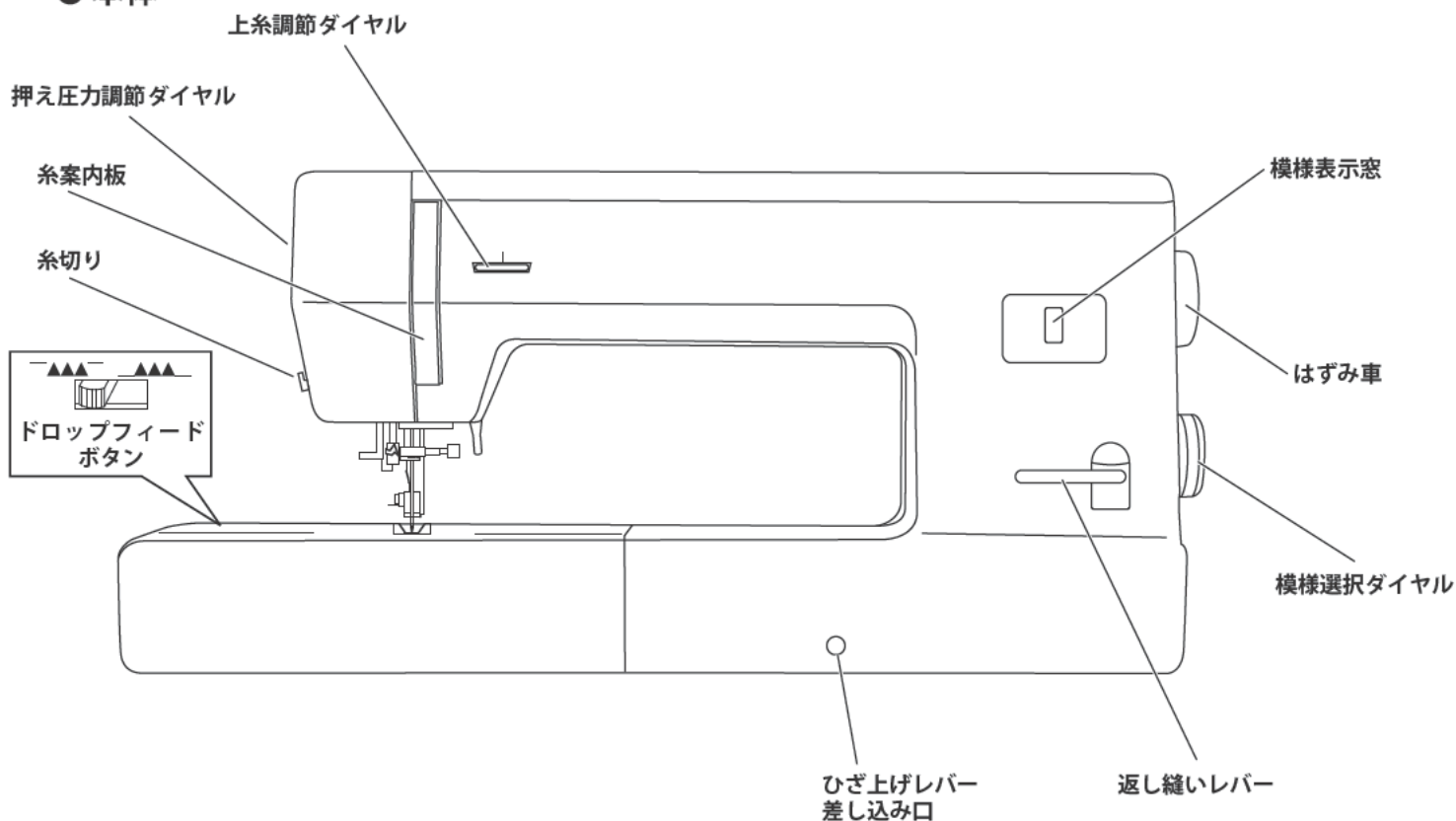
トップカバーを手で持って、開けます。



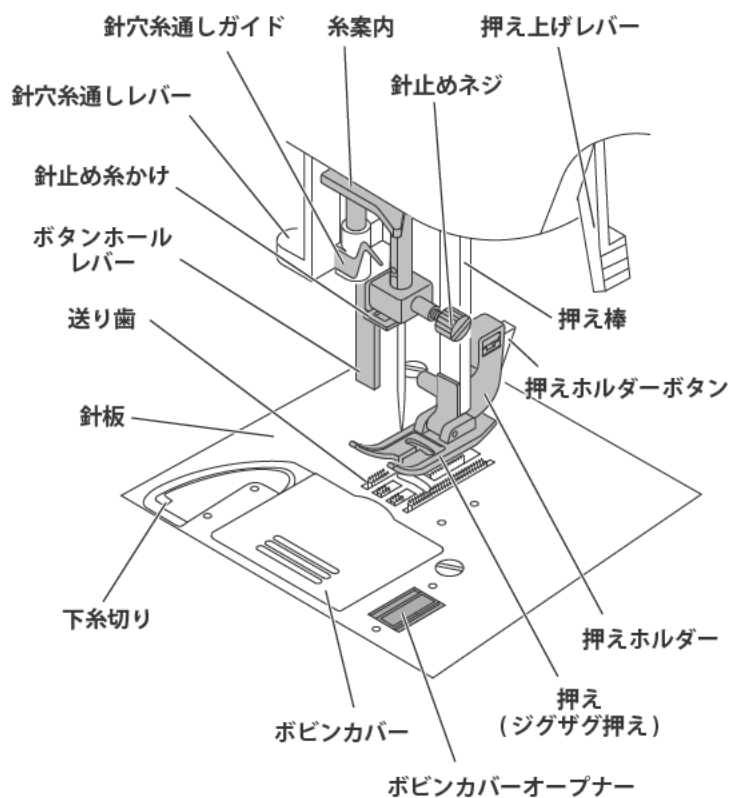
トップカバーを開きますと、糸かけや針振り幅調節ダイヤルなどが確認できます。

各部の名まえ

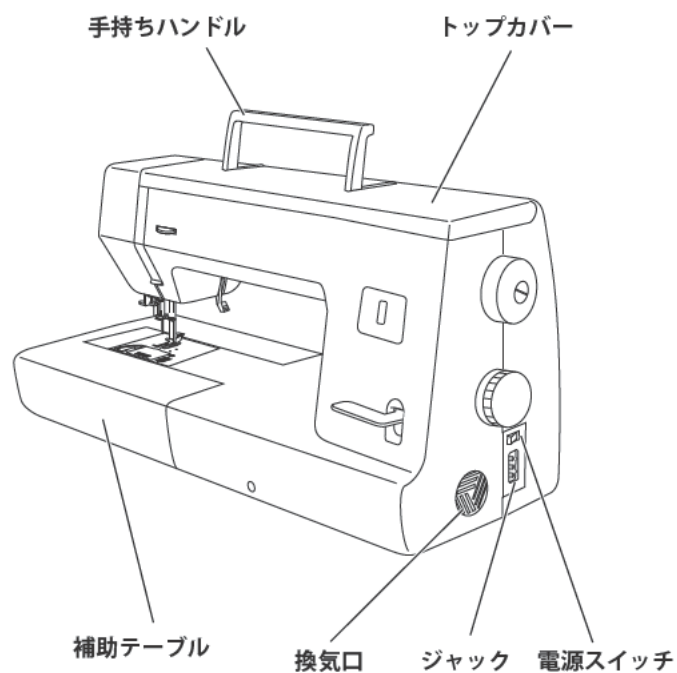
● 本体



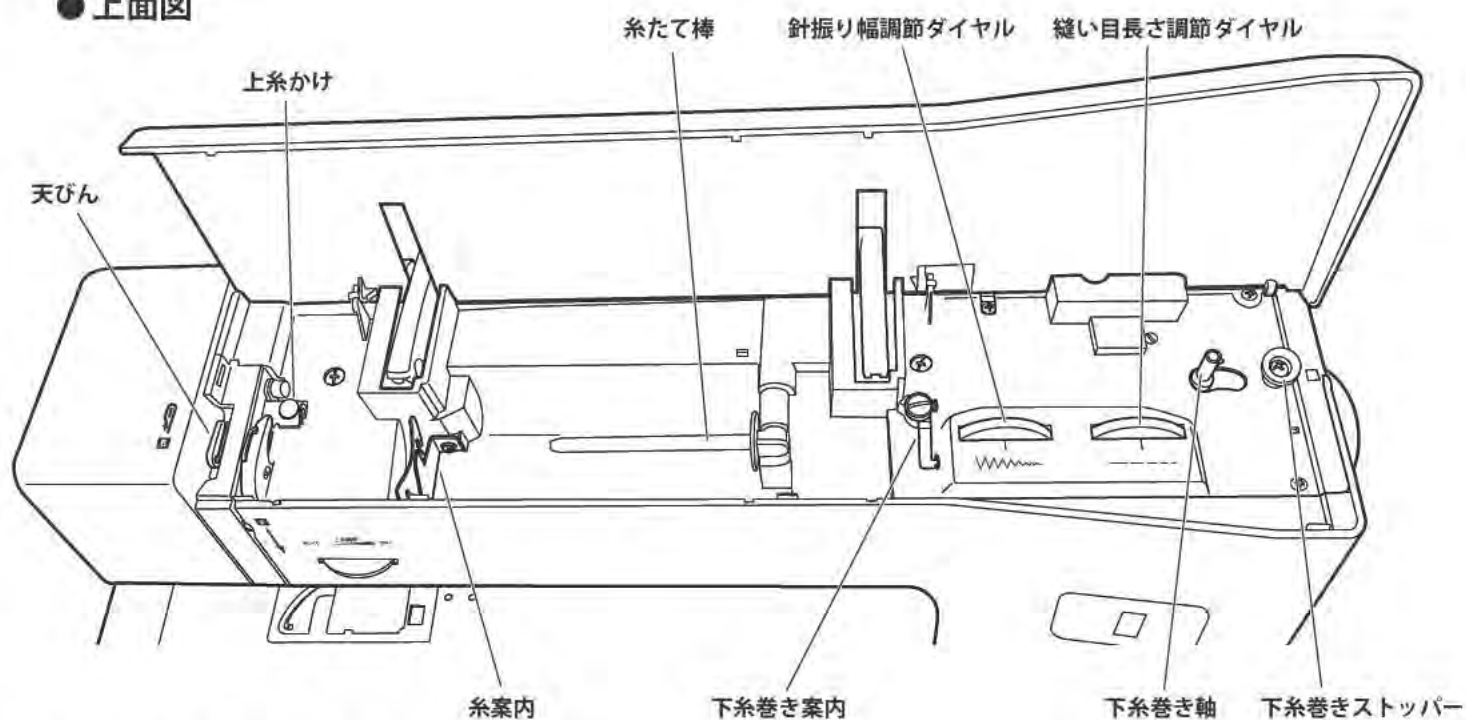
● 針周辺



● 右側面



● 上面図



模様選択ダイヤル



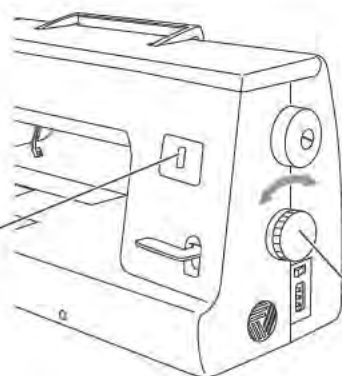
注意



・はずみ車を手前に回し、針を上げる。

針が生地に刺さった状態で、模様選択ダイヤルを回すと、針が折れ、ケガをする恐れがあります。

模様表示窓



模様選択ダイヤル

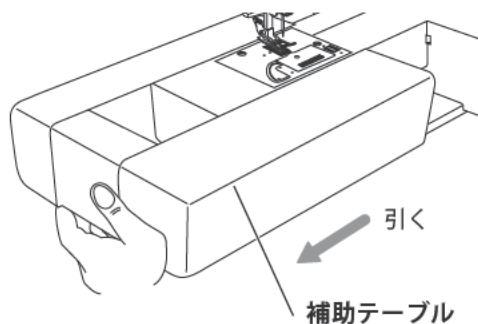
『模様選択ダイヤル』を回し、
『模様表示窓』に縫いたい模様を合わせます。

● 縫い模様一覧

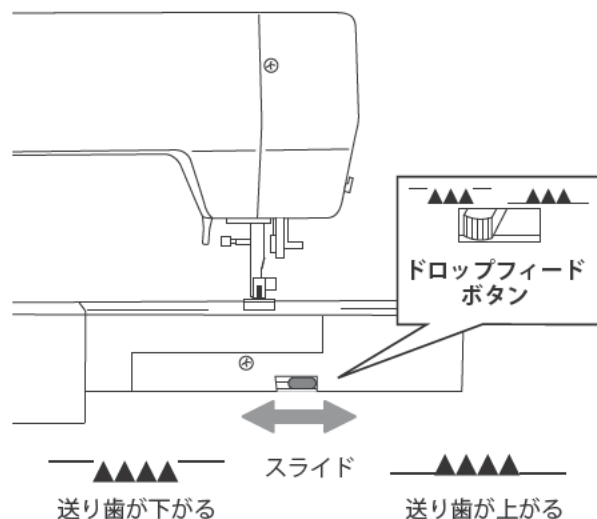
1-Step BH 	1 	2 	3 	4 	5 	6 	7 	8 	9 	10 	11 	
12 	13 	14 	15 	16 	17 	18 	19 	20 	21 	22 	23 	24 
25 	26 	27 										

ドロップフィード（送り歯高さ切り替え）

刺しゅうやキルトなど生地を手で動かして縫うときに、送り歯を下げるができます。



< ミシン背面図 >



補助テーブルを左に引いて外すと、ミシン背面側に『ドロップフィードボタン』が確認できます。

『ドロップフィードボタン』を操作することで、送り歯を上下させることが可能になります。

- *『ドロップフィードボタン』はミシンの背面側から操作してください。
- *『ドロップフィードボタン』を作動するときは、『押え上げレバー』を上げてください。
(P8 押え上げレバーを参照)

● 送り歯を上げる場合（通常縫い）

『ドロップフィードボタン』をミシン背面側から右にスライドさせます。

- *『送り歯』が上がってこないときは、『はずみ車』を手前に1回転すると『送り歯』が上がります。

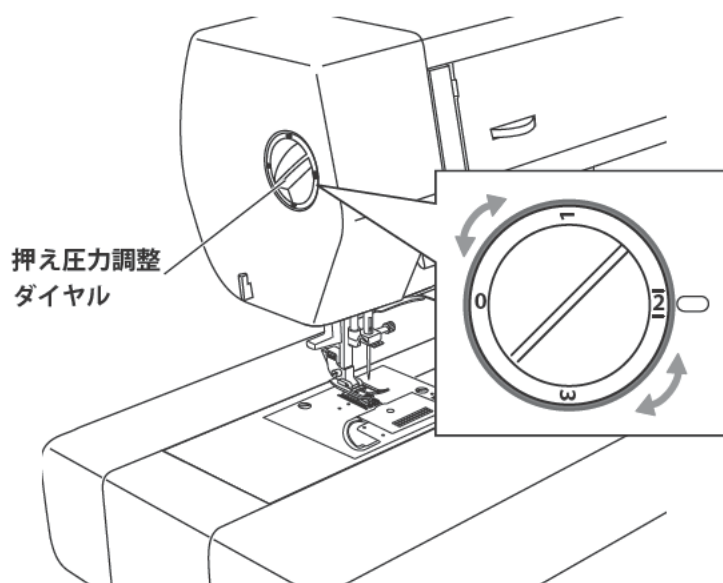
● 送り歯を下げる場合

『ドロップフィードボタン』をミシン背面側から左にスライドさせます。

- * 通常縫いはできません。ご注意ください。

押え圧力調節ダイヤル

生地の厚さやすべり具合によって、生地を押える押え金の圧力を調節することができます。



● 薄地、やわらかい生地の場合

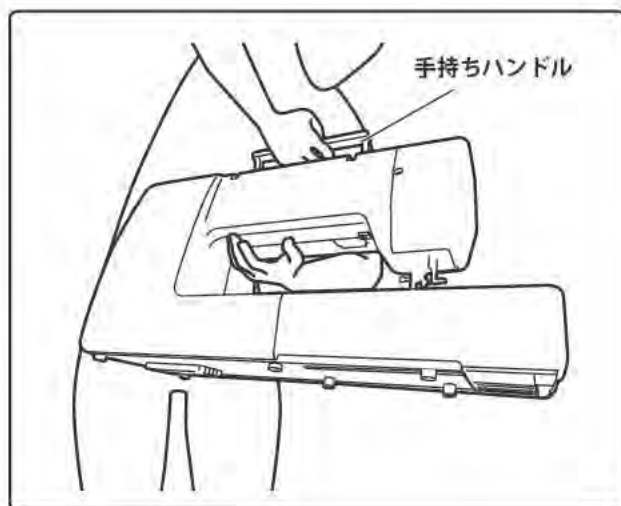
『押え圧力調節ダイヤル』を小さい数字に回します。

● 厚地、すべりの悪い生地の場合

『押え圧力調節ダイヤル』を大きい数字に回します。

- * 通常は【2】でご使用ください。

手持ちハンドル



ミシンを移動するときは、必ず右図のようにミシン本体と『手持ちハンドル』を一緒に持って移動させてください。

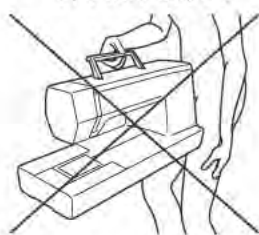


注意



ミシン本体は重量があるので、下記の間違った持ち運びをしないでください。
ミシンが壊れたり、滑って落としケガをする恐れがあります。

・片手で持つ。



・手持ちハンドル以外の場所を持つ。



・持ち運ぶときは急激・不用意な動作をしない。



押え上げレバー



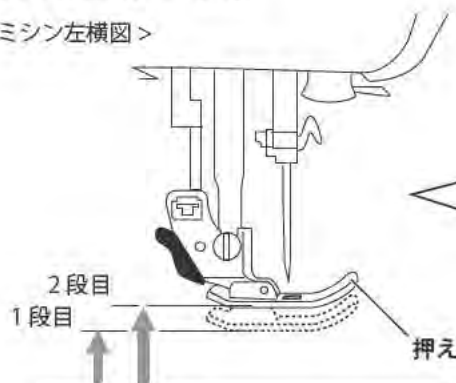
注意



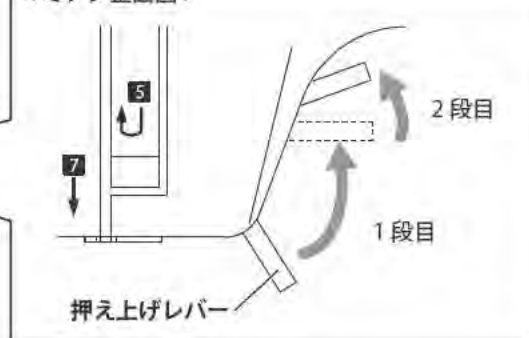
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

●押えの上げ・下げ

<ミシン左横図>



<ミシン正面図>



『押え上げレバー』を上げると、『押え』が上がります。

更に『押え上げレバー』を上げると、『押え』がもう一段上がる2段階式になっています。

*2段階目では、『押え』の高さ固定はできません。

*生地の高さは1段階目の高さを超えないようにしてください。

押えの取り外しかた・取り付けかた



注意



・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

針を上げる



押し上げる

押えホルダー
ボタン

押えホルダー

押え

●押えの外しかた

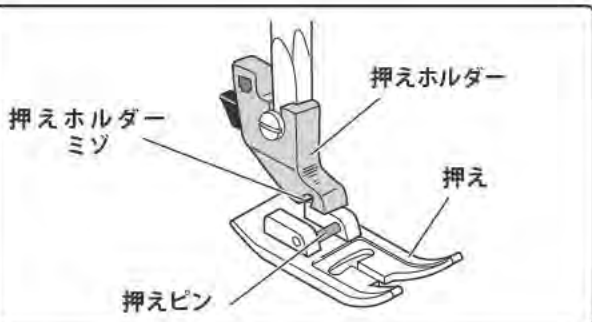
- [1] 『はずみ車』を手間に戻し、針を上げます。
- [2] 『押え上げレバー』を上げます。
- [3] 『押えホルダーボタン』を押すと、『押え』が外れます。

●押えの取り付けかた

- [1] 『針』と『押え上げレバー』を上げます。
- [2] 『押えピン』を『押えホルダーミゾ』の真下に置きます。
- [3] 『押え上げレバー』をゆっくり下げ、『押えピン』と、『押えホルダーミゾ』を合わせます。

*押えがセットされると『カチッ』と音がします。

*音がしない場合や押えがすぐに外れるときはもう一度『押えピン』と『押えホルダーミゾ』を合わせ直してください。



ひざ上げレバー

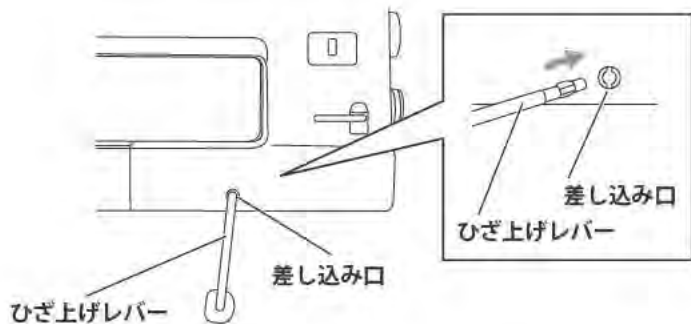
『ひざ上げレバー』を使用すると、ひざで『押え』を上げ下げできます。



注意

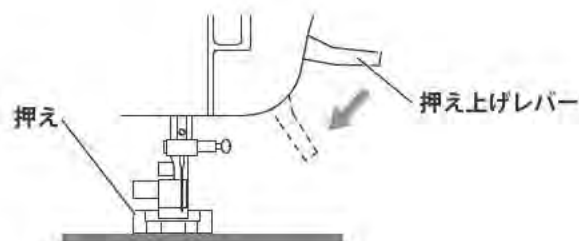


・ひざ上げレバーは差し込み口の奥までしっかり差し込む。
使用中にひざ上げレバーが外れて、ケガをする恐れがあります。



- [1] 『ひざ上げレバー』の先端の突起部をミシン本体の差し込むとき、左図のように『ひざ上げレバー』を少し斜めにして奥までしっかり差し込みます。

*『ひざ上げレバー』が奥まで差し込まないと『押え』は上下しません。確実に奥まで差し込んでください。



- [2] 『押え上げレバー』を下げます。

*『押え上げレバー』を下げておかないと、『ひざ上げレバー』を操作しても、『押え』は作動しません。

- [3] 『ひざ上げレバー』を右に押すと、『押え』が上がります。
『ひざ上げレバー』を離すと、『押え』が下がります。

注意

ひざ上げレバー操作では、生地と糸を引き抜きにくくなります。押え上げレバーで、押えを上げて生地と糸を引き抜いてください。

押えホルダーの取り外しかた・取り付けかた



注意

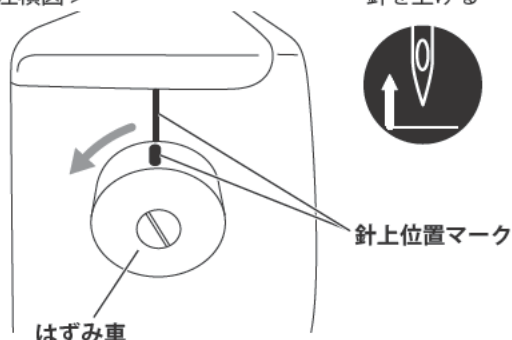


- ・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。
- ・専用の付属品をご使用ください。
ミシンの故障の原因になる恐れがあります。

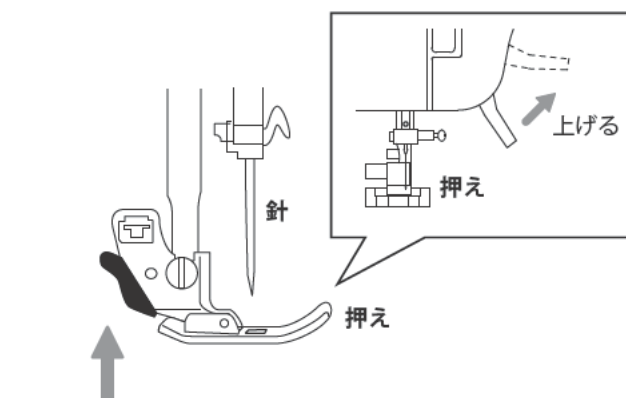


- ・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

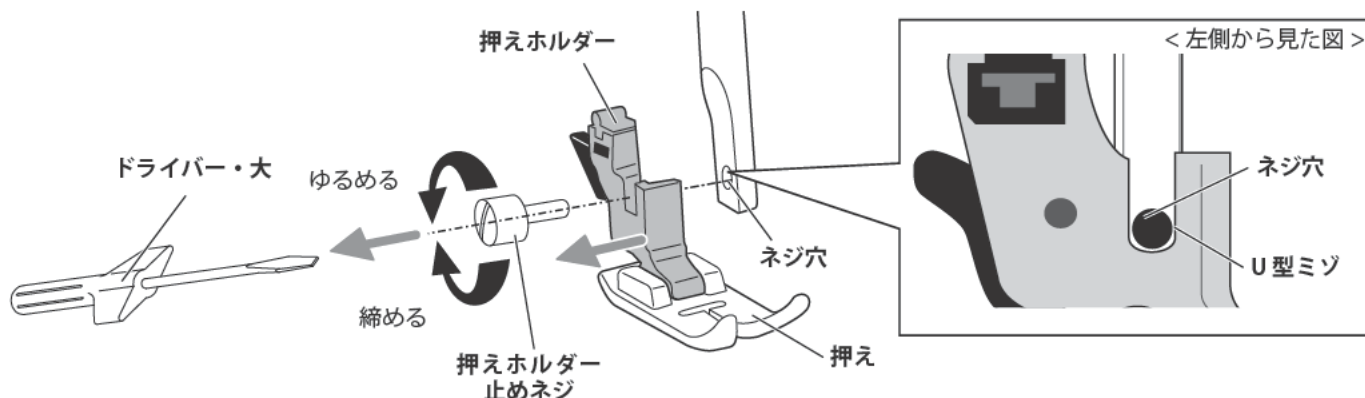
< ミシン左横図 >



- 【1】『はずみ車』を手前に回し、『はずみ車の針上位置マーク』と『ミシン本体の針上位置マーク』を合わせます。



- 【2】『押え上げレバー』を上げます。



- 【3】 外す : 『押えホルダー止めネジ』を『ドライバー・大』でゆるめ、『押えホルダー』を外します。
付ける : 『押えホルダー』のU型ミソと『ネジ穴』の位置を合わせ、『押えホルダー止めネジ』を『ドライバー・大』で強く締めます。
*付属の『ドライバー・大』をご使用ください。

電源を入れる前に

縫い損じを防ぐため、次のことを実施してください。



注意

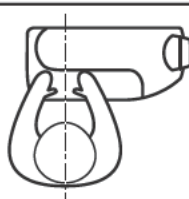


- ・安定した場所に設置する。・作業スペースを十分に確保する。
 - ・周囲に物を置かない。
- はずみ車や針など動く部分が露出しています。ケガの原因になります。

●ミシンをより快適に使うために



針先が無理なく見える位置にミシンを設置してください。



針の中心と身体の中心が一致するようにミシンを設置してください。

電源を入れる



注意



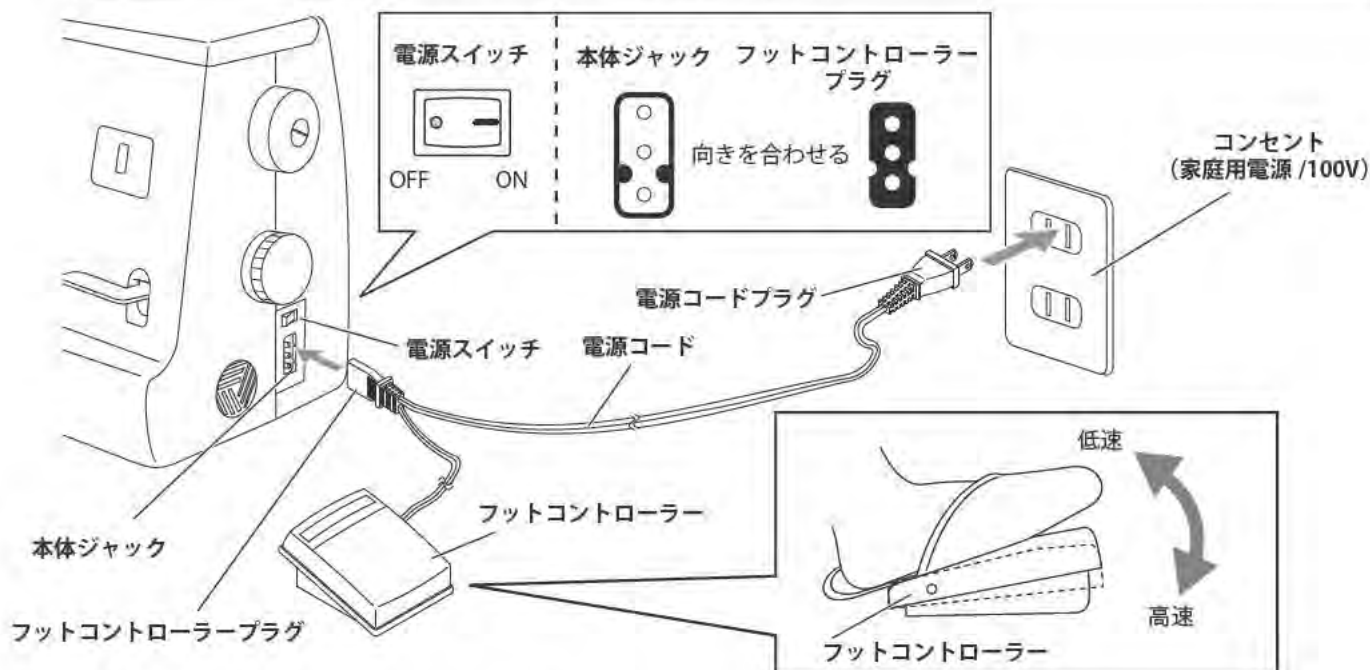
・電源スイッチを『OFF』にする。・はずみ車や針周辺に手や物を置かない。
突然動くとケガをする恐れがあります。



警告



・電源コードはプラグ部分を持って抜き差しする。
電源コードを引っ張ると、電源コード部分が破損し、死亡、火災、感電、機器故障の原因になります。



- [1] 『電源スイッチ』を『OFF』にします。
- [2] 『フットコントローラープラグ』をミシン側の『本体ジャック』の向きを合わせて差し込みます。
- [3] コンセント (家庭用電源 /100V) に『電源コードプラグ』を差し込みます。
- [4] 『電源スイッチ』を『ON』にします。(『ランプ』が点灯します)
- [5] 『フットコントローラー』を少しづつ踏み込むと、ミシンは動き始めます。
- [6] 『フットコントローラー』を踏み込むほど、ミシンのスピードは速くなります。
- [7] 『フットコントローラー』から足をはなすと、ミシンは停止します。

*使用後は、必ず『電源コードプラグ』をコンセントから抜いてください。

*専用フットコントローラー『型式：YC-480 定格：AC100V』

ボビンの取り出しかた



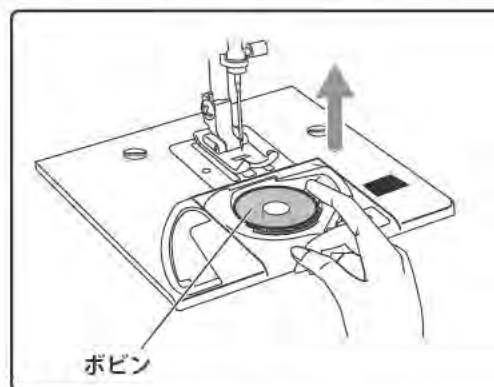
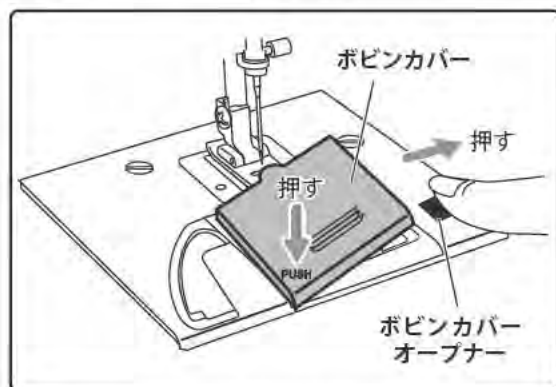
注意



・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



- [1] 『ボビンカバーオープナー』を右に押し、
『ボビンカバー』の PUSH 部分を押すと外れます。

- [2] 『ボビン』を取り出します。

下糸の巻きかた

* ボビンは家庭用プラスチックボビン (11.5 × 20.5mm) をご使用ください。
(異なるボビンをご使用しますとミシンの故障の原因になる恐れがあります)



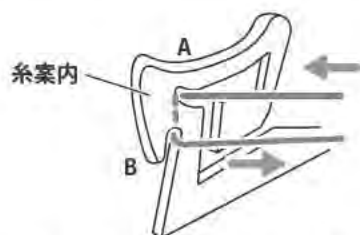
注意



・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

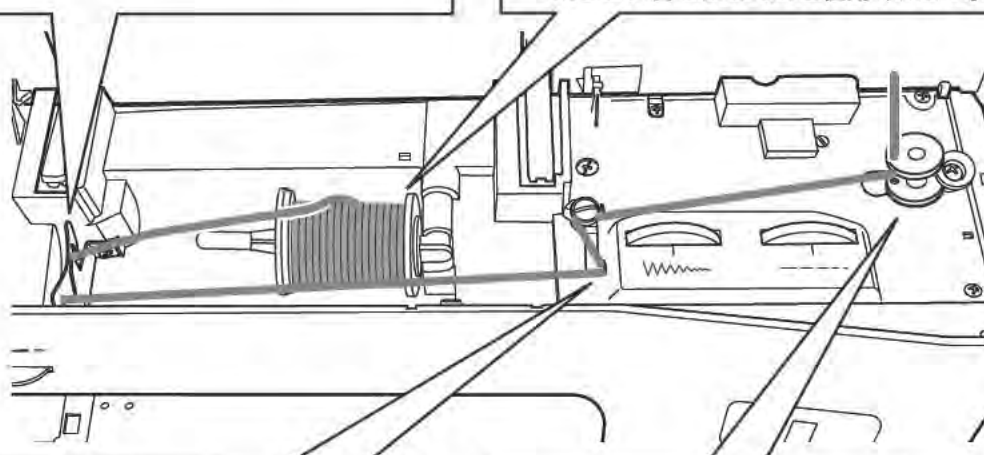


【2】『糸案内』に図 A、B の順に糸をかけます。



【1】『糸たて棒』を少し上に傾け、『糸こま』の『糸止めカット』を図のように向け、奥まで差し込みます。『糸こま』が飛び出していないように『糸こま押え』でしっかり押えます。

*『糸こま押え』は、大小2種類付属されているので『糸こま』の大きさに合ったものをご使用ください。



ボビン 下糸巻き軸



凹 下糸巻き軸バネ
『ボビン』の凹と『下糸巻き軸』のバネを合わせるようにボビンを入れます。



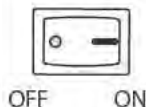
【3】『下糸巻き案内の A』に糸をかけ、『下糸巻き案内』にしっかり奥まで糸をかけます。



【4】『ボビン』の穴に内側から糸を通し、『下糸巻き軸』に『ボビン』を差し『下糸巻き軸』を右に移動させます。



電源スイッチ



本体ジャック フットコントローラープラグ



向きを合わせる

電源コード

電源スイッチ

電源コードプラグ

コンセント
(家庭用電源/100V)

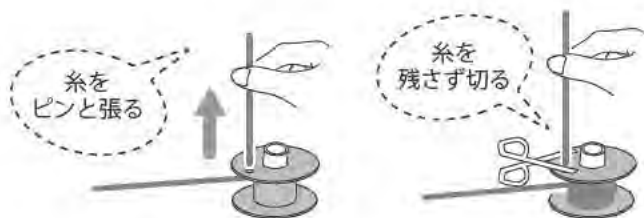
本体ジャック

フットコントローラー

フットコントローラープラグ

【5】『フットコントローラープラグ』をミシン側の『本体ジャック』の向きを合わせて差し込み、コンセントに『電源コードプラグ』を差し込みます。

【6】『電源スイッチ』を『ON』にします。
(『ランプ』が点灯します)



- 【7】 糸先を持ったまま『フットコントローラー』を軽く踏み込み、『ボビン』に5、6回転させ、糸を巻き付けます。ミシンを一度止め、持っていた糸を『ボビン』の穴から残さず切ります。



- 【8】 『フットコントローラー』を深く踏み込み、糸を巻きます。糸が巻き終わったら『フットコントローラー』から足を離してミシンを止めます。『下糸巻き軸』を左に戻し、『ボビン』を抜きます。

上糸のかけかた



注意

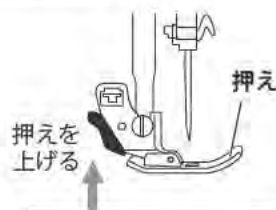


・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

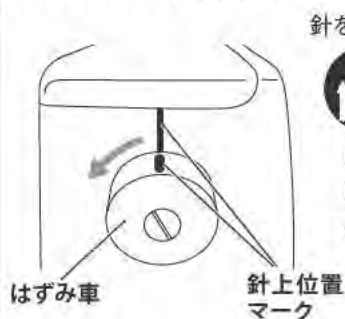
準備



『押え上げレバー』で『押え』を上げます。

*『押え』を下げた状態で上糸を通すと、糸の調子が取れません。

*『ひざ上げレバー』では『押え』を上げないでください。

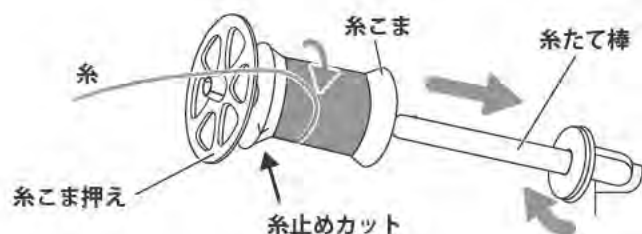
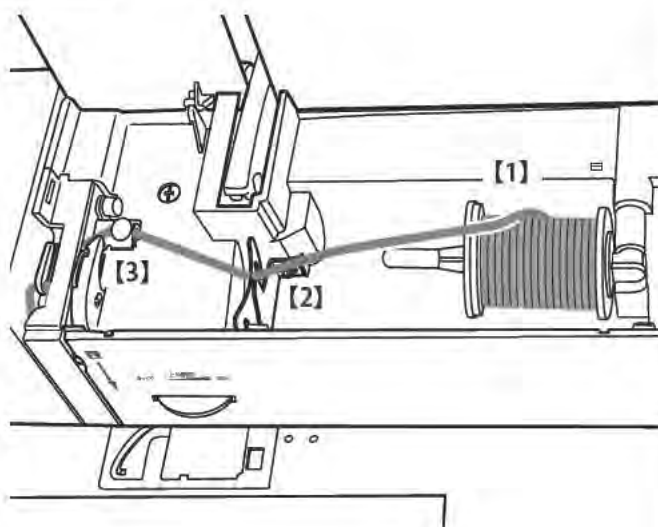


針を上げる

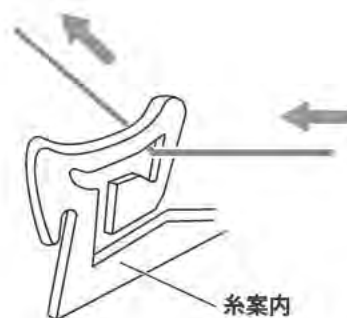


『はずみ車』を手前に回し、『針上位置マーク』を合わせます。

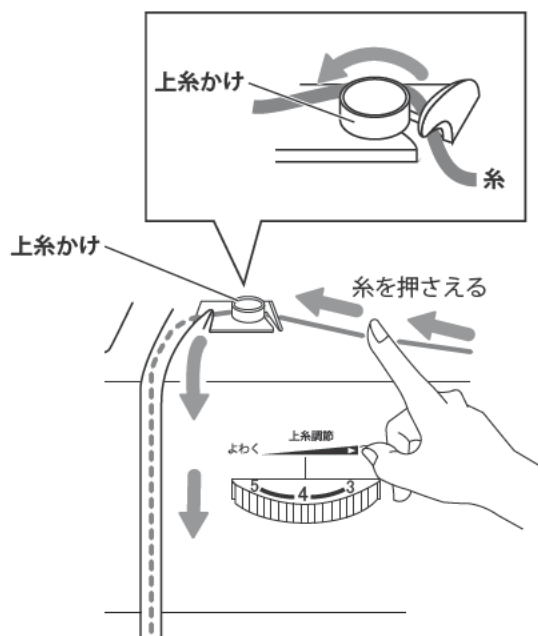
順序



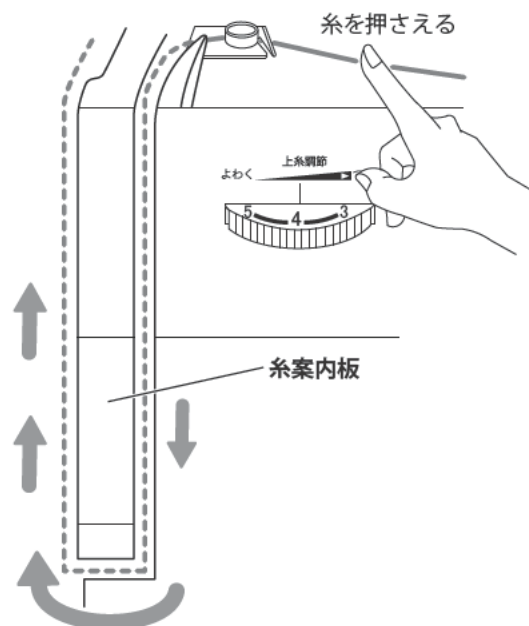
- 【1】 『糸たて棒』に『糸こま』、『糸こま押え』をセットします。(P12 下糸の巻きかたを参照)



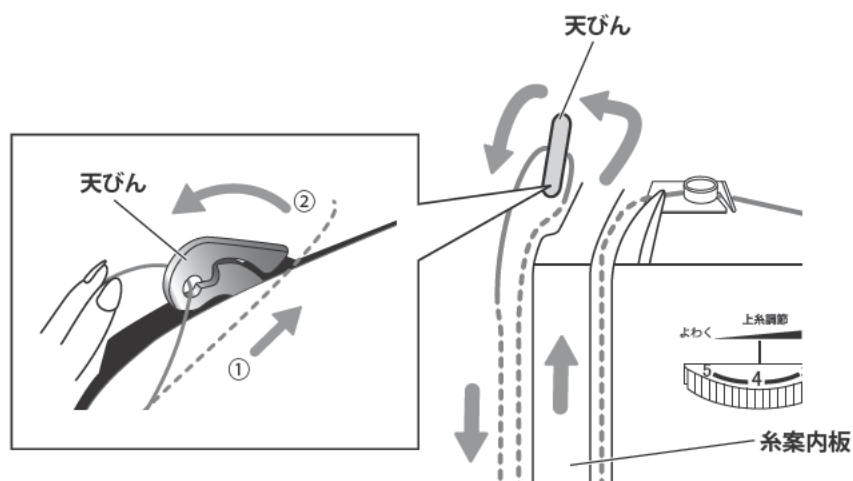
- 【2】 『糸案内』に糸をかけます。



- 【3】 糸を指で軽く押さえ、糸を張った状態で『上糸かけ』にかけます。



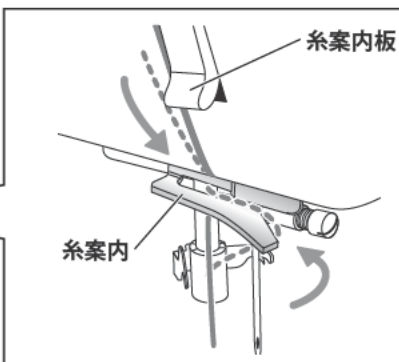
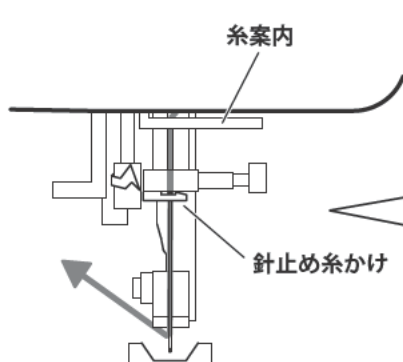
- 【4】 必ず糸を指で押さえたまま、『糸案内板』にそって糸を下し、左上に引き上げます。



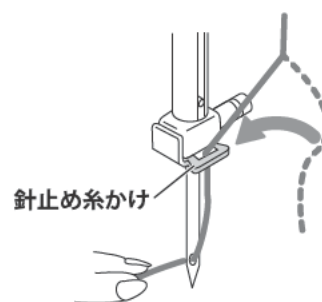
- 【5】 『糸案内板』にそって糸を下ろすと、『天びん』に上糸が通ります。

*『はずみ車』を手前に回して、『天びん』に糸がかかってあるのか確認してください。

*『針上位置マーク』を合わさないと、『天びん』に糸はかかりません。



- 【6】 『天びん』から『糸案内板』にそって糸を下ろし、『糸案内』に通します。



- 【7】 糸を『針止め糸かけ』に通し、針の穴に通します。

針穴系通し器



注意



・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



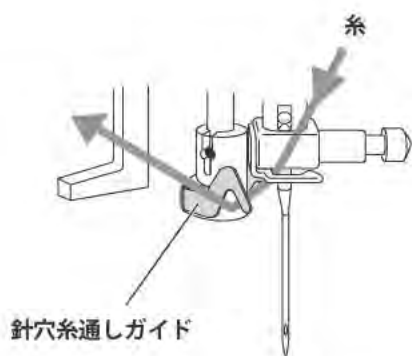
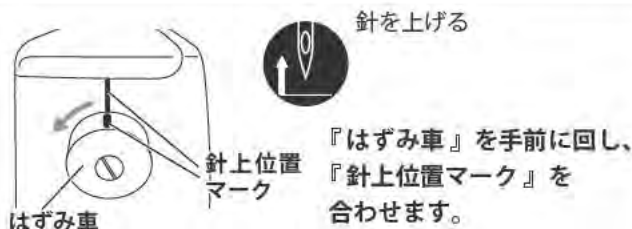
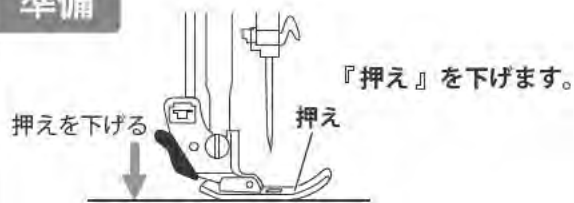
・針先や針穴系通しガイド・糸通しフックに注意する。
ケガをする恐れがあります。

注意：間違った使い方をすると針穴系通し器が破損します。

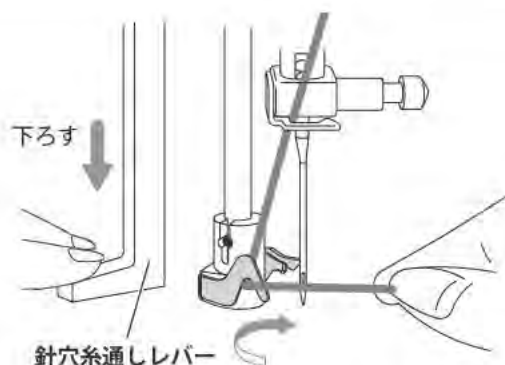


・曲がった針は使用しない。 ・針の太さを# 14より細い針を使用しない。 ・糸の太さを# 40より太い糸を使用しない。

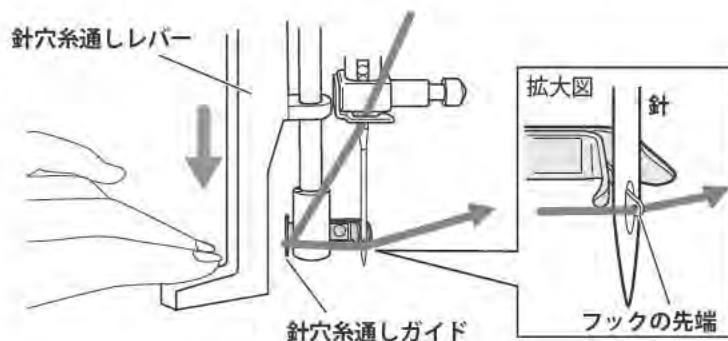
準備



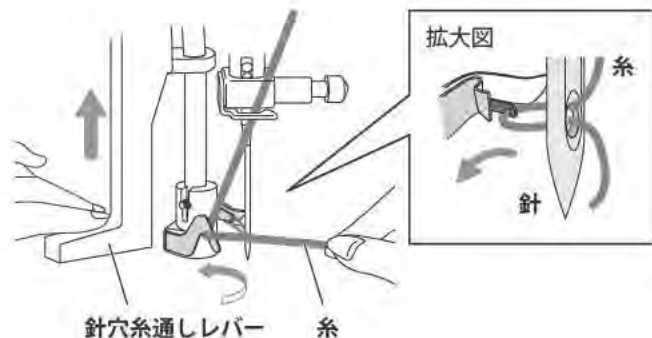
【1】 糸先を持ち『針穴系通しガイド』に糸をかけます。



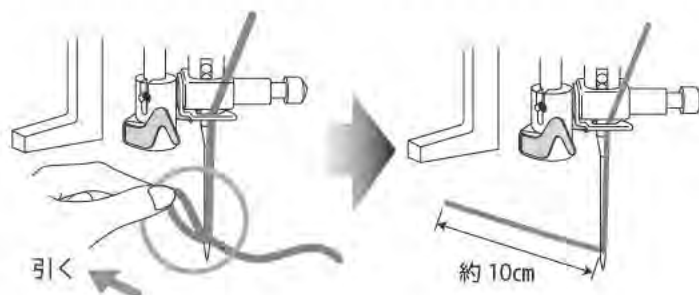
【2】 糸先を右手で持ったまま、左手で『針穴系通しレバー』をゆっくり一番下まで下します。



【3】 『針穴系通しレバー』が下がると、『糸通しフック』が回転し、針の穴に『フックの先端』が通ります。『針穴系通しガイド』にかけた糸を右奥に引っ張り、更に糸を持ち上げます。



【4】 糸先を軽く持ちながら、『針穴系通しレバー』をゆっくり離します。



【5】 離すと同時に針の後方に糸の輪が引き出されます。糸の輪を引っ張りに約 10cm 引き出します。

下糸のセット

* ボビンは家庭用プラスチックボビン (11.5 × 20.5mm) をご使用ください。
(異なるボビンをご使用するとミシンの故障の原因になる恐れがあります)



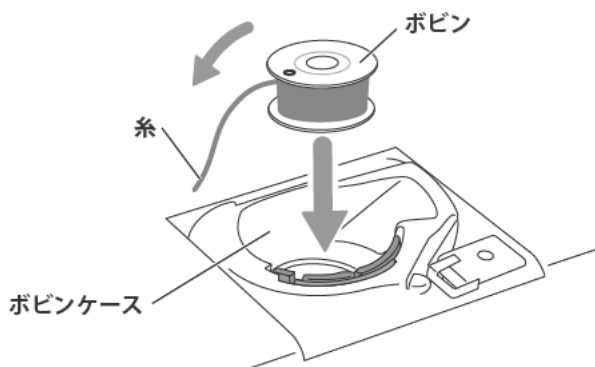
注意



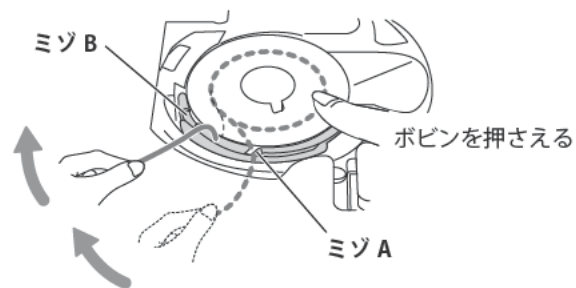
・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



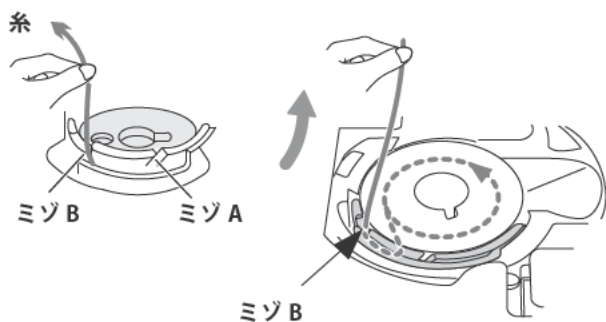
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



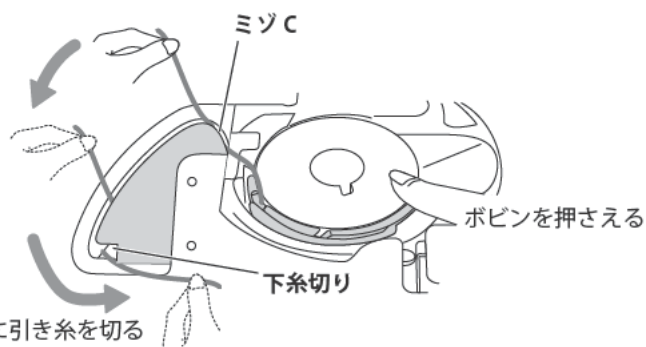
【1】 糸を約 10cm 引き出した『ボビン』を左側から糸が出るように『ボビンケース』に入れます。



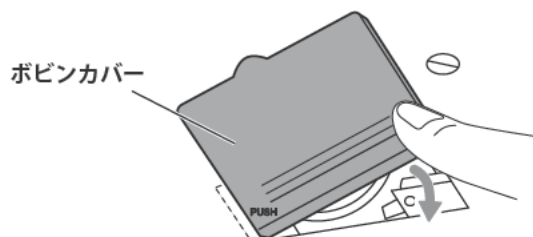
【2】 『ボビン』を指で軽く押さえながら、引き出した糸を『ミゾ A』にかけ、『ミゾ B』まで左側に引き出します。



【3】 糸を『ミゾ B』のミゾにそって糸をかけます。



【4】 『ボビン』を指で軽く押さえながら、『ミゾ C』のミゾにそって糸を通し、そのあと矢印の方向に引き『下糸切り』で糸を切ります。



【5】 『ボビンカバー』の左部分を差し込み『ボビンケース』を閉じます。

下糸の引き上げかた

* 刺しゅうなどあらかじめ下糸を引き出しておきたいときは、以下の手順に従って操作してください。



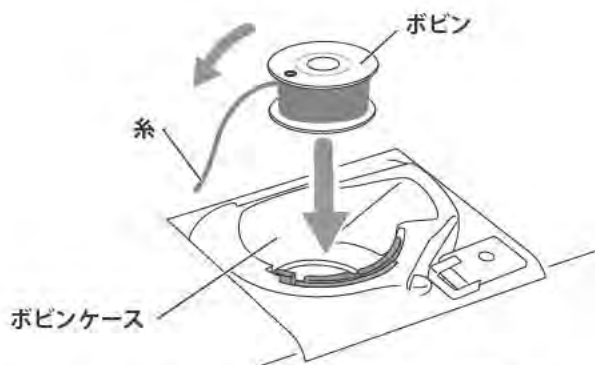
注意



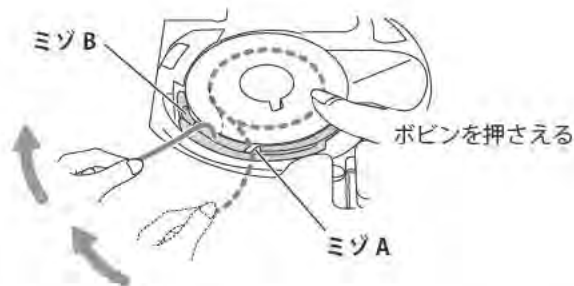
・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



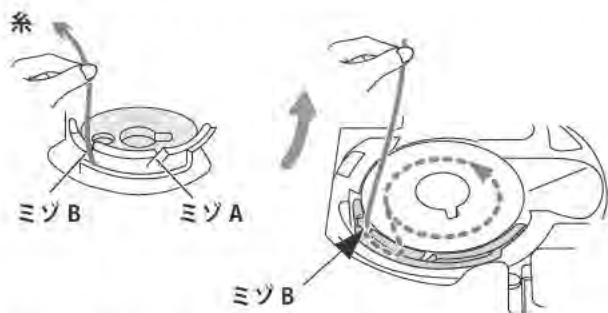
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



- 【1】 糸を約 10cm 引き出した『ボビン』を左側から糸が出るように『ボビンケース』に入れます。



- 【2】 『ボビン』を指で軽く押さえながら、引き出した糸を『ミゾ A』にかけ、『ミゾ B』まで左側に引き出します。



- 【3】 糸を『ミゾ B』のミゾにそって糸をかけ、糸を向こう側に約 10cm 引き出します。

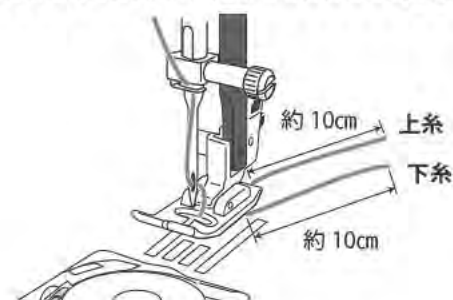
* 糸を『下糸切り』で切らないでください。



- 【4】 『押え上げレバー』で『押え』を上げ、上糸の端を持ちます。



- 【5】 『はずみ車』を手前に 1 回転させ針を上げると、下糸の輪が引き出されます。上糸の端を引き下糸の輪をつまみ、下糸を引き上げます。



- 【6】 上糸と下糸をそろえ、『押え』の下に約 10cm 引き出します。



- 【7】 『ボビンカバー』の左部分を差し込み『ボビンケース』を閉じます。

針の位置を変える

●針振り幅調節ダイヤル

『針振り幅調節ダイヤル』を調節すると、針の位置が変わります。

針が左に移動する。

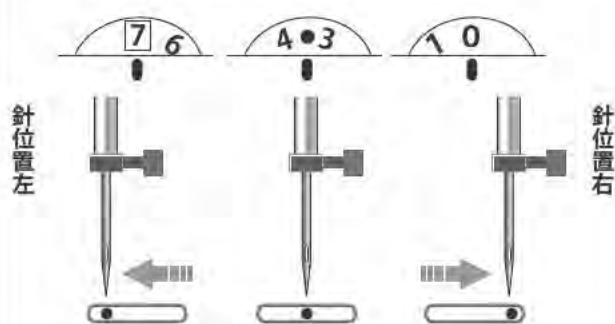
針が右に移動する。



左に回す：数値を小さくすると、針の位置が右に移動します。

右に回す：数値を大きくすると、針の位置が左に移動します。

*直線縫い模様の場合



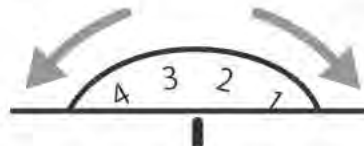
縫い目の長さを変える

●縫い目長さ調節ダイヤル

『縫い目長さ調節ダイヤル』を調節すると、縫い目長さが変わります。

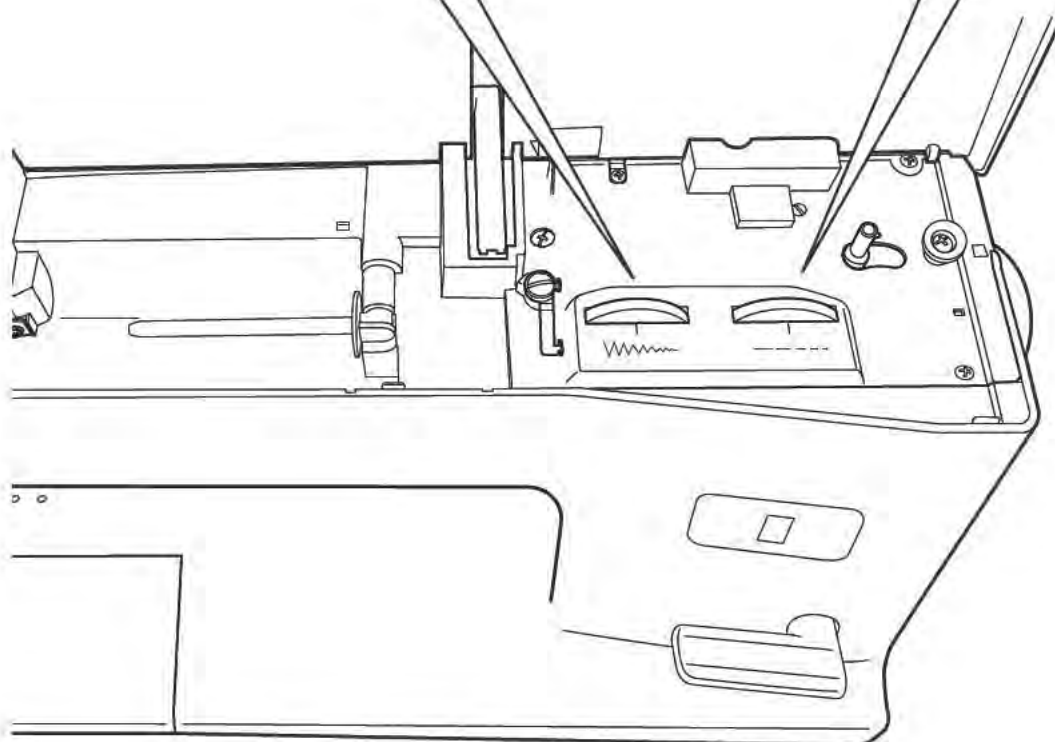
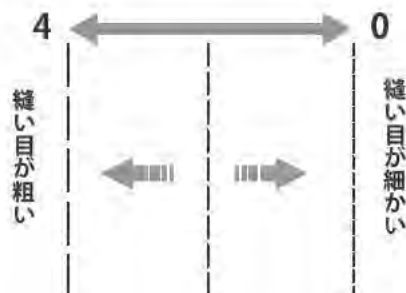
縫い目が細くなる。

縫い目が粗くなる。



左に回す：数値を小さくすると、縫い目の長さが細くなります。

右に回す：数値が大きくなると、縫い目の長さが粗くなります。



直線縫い



注意



・模様選択のときは針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

・直線押えは、模様選択ダイヤルを【1】の直線縫いに合わせ、針振り幅調節ダイヤルの数字『3.5』以外は使用できません。
針が折れ危険です。

準備

『下糸巻き軸』を左側にします。
(軸が右にあると針が動きません)



『電源スイッチ』を『ON』にします。

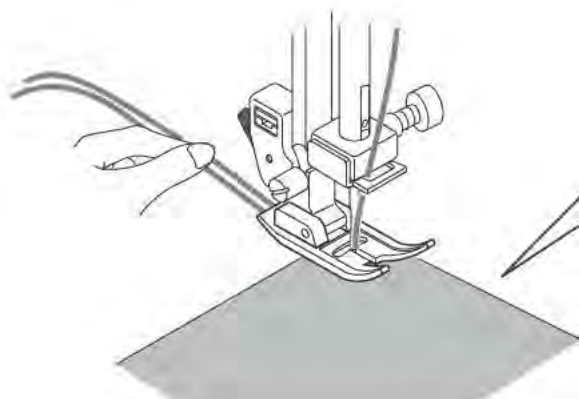


『模様選択ダイヤル』で縫い模様を選択します。



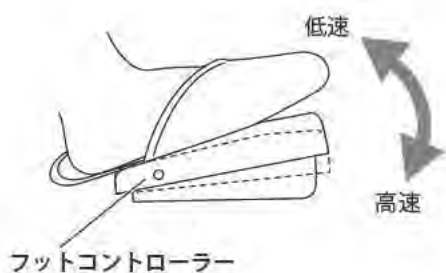
押え	模様表示	針振り幅調節ダイヤル	縫い目長さ調節ダイヤル
ジグザグ押え	1	165432 1~7	3 2 1 1~4

押え	模様表示	針振り幅調節ダイヤル	縫い目長さ調節ダイヤル
直線押え	1	4 ● 3 3.5	3 2 1 1~4



【1】生地を『押え』の下に置き、『はずみ車』を手前に回して、縫い始める位置に針を刺します。

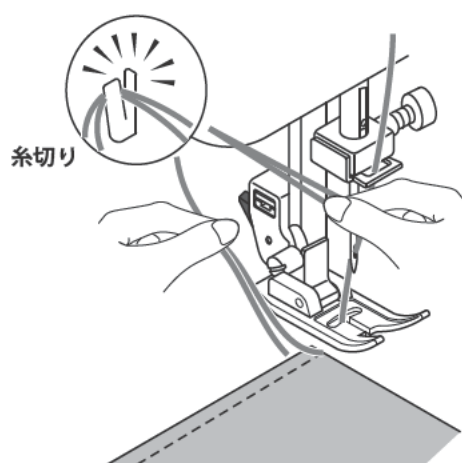
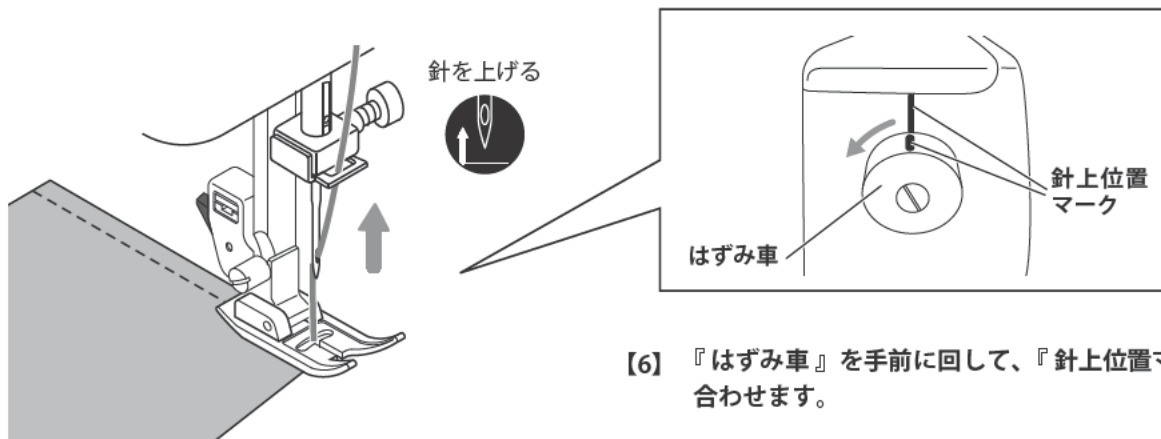
【2】『押え』を下げます。



【3】少しずつ『フットコントローラー』を踏み込み、縫い始めます。

【4】生地に手を軽くそえ、生地が進む方向を修正・補助します。

【5】『フットコントローラー』から足を離して、ミシンを止めます。



- 【7】『押え上げレバー』を上げ、生地を引き出します。
その後、『糸切り』で糸を切ります。

*縫い始めと縫い終わりに『返し縫いレバー』を操作すると、ほつれ止めになります（P21 返し縫いを参照）

*薄地や送りの悪い生地を縫うときは、ハترون紙などの紙を生地の下に敷くと順調に縫うことができます。

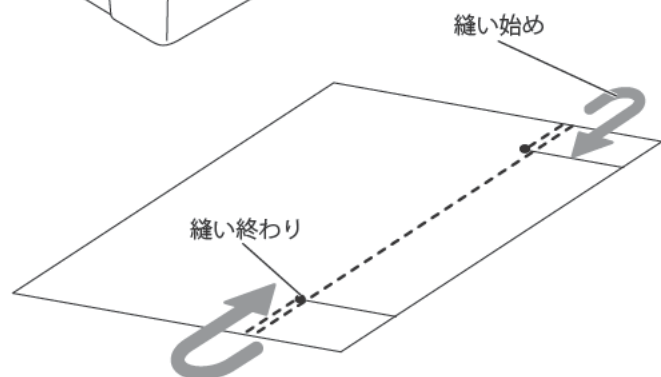
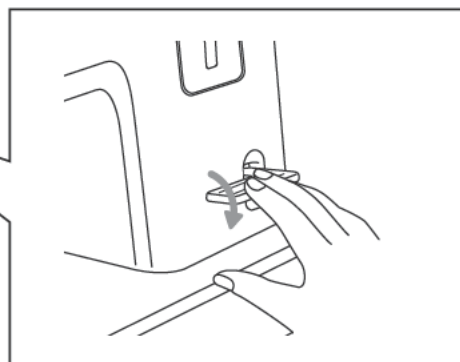
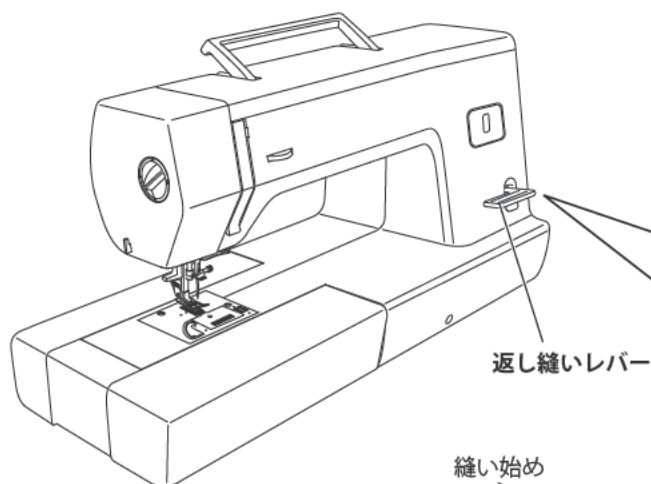
返し縫い



注意



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



ミシンが動いているときに、『返し縫いレバー』を押し下げている間は返し縫いになります。

*縫い始めと縫い終わりに返し縫いを行うとほつれ止めになります。

*生地の手前の寸前から返し縫いを行うと、生地が食い込んでしまう場合があります。

針、糸、生地の関係

きれいに縫うためには、生地に合った針と糸をご使用ください（下記の表を参照）

上糸と下糸は同じ種類・同じ太さの糸をご使用ください。

針は家庭用ミシン針（HA × 1）、糸は家庭用ミシン糸とご指定の上お買い求めください。

（工場出荷時、ミシン本体には 14 番の針が装備されています）

*下記の表はあくまで参考です。必ず試し縫いをして、縫い目をご確認ください。

	生地の種類	針の種類・番号	糸の種類・番号
薄地	一般裏地、ローン、ジョーゼット、レース、キュプラなど	9、11 番	綿 60～100 絹 50～90 化繊糸 60～90
普通地	一般服地、ブロード、ソフトデニム、サテン、パイル、ギンガムなど	11、14 番	綿 60～90 絹 50～90 化繊糸 60～90
厚地	キルティング、フリース、ツイード、デニム、フェルトなど	14、16 番	綿 40～50 絹 50 化繊糸 50～60
伸縮地	ニット、トリコット、スパンテックス、ジャージなど	ニット用針 11、14 番	綿 60 化繊糸 50～90 ニット用糸 50～90

*針は数字が大きくなるほど太くなります。

*糸は数字が大きくなるほど細くなります。

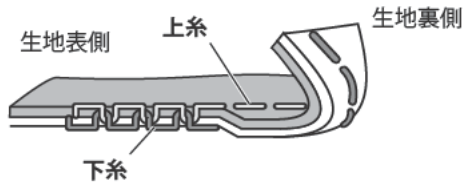
（針の交換方法は P36 針の取り替えかたをご参照ください）

糸調子の合わせかた

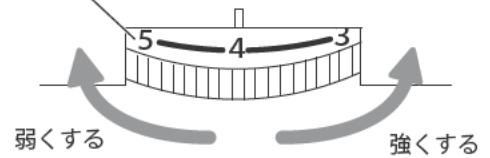
糸調子が合わない場合は、上糸調節ダイヤルを回して調節してください。

●正しい糸調子

上糸と下糸が生地のほぼ中央で交わります。

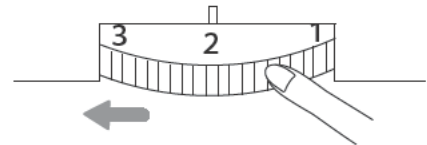
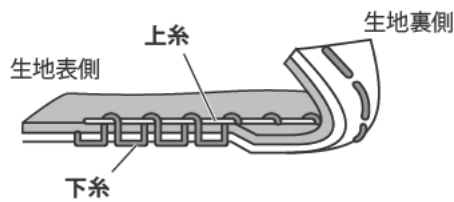


上糸調節ダイヤル



●上糸が強いとき

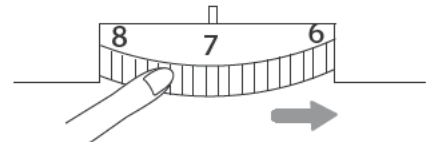
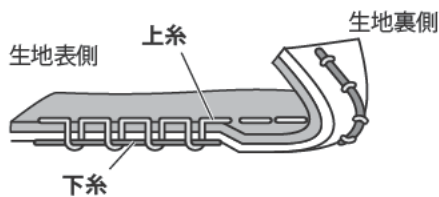
下糸が生地の表に出ています。



『上糸調節ダイヤル』を数字の小さくなる方向に回します。

●上糸が弱いとき

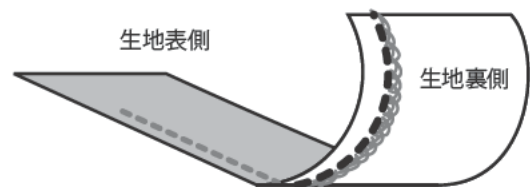
上糸が生地の裏に出ています。



『上糸調節ダイヤル』を数字の強くなる方向に回します。

●生地裏側の糸がタオル地のようになるときは

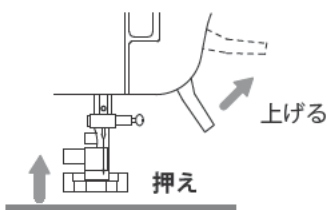
- ・上糸の糸調子が弱い。
- ・『押え上げレバー』が上がっている。
- ・『天びん』から上糸が外れている。
- ・上糸のかけかたが間違っている。
- ・糸が太すぎる(太さ #40 までです)
- ・針に不具合が生じてる。



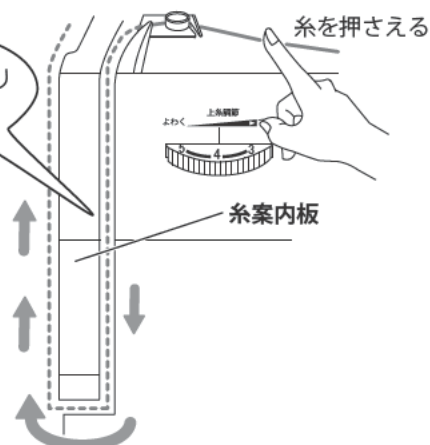
ポイント！

『押え』を上げ、ミシンから上糸を全て外し、上糸を再度正しくかけ直してください (P13 ~ P14 上糸のかけかたを参照)

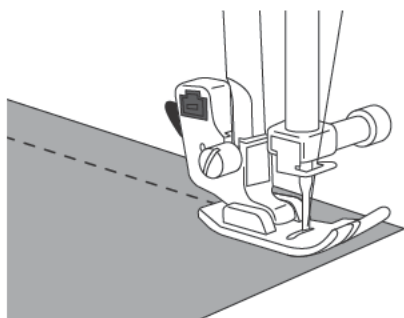
『押え』を上げる



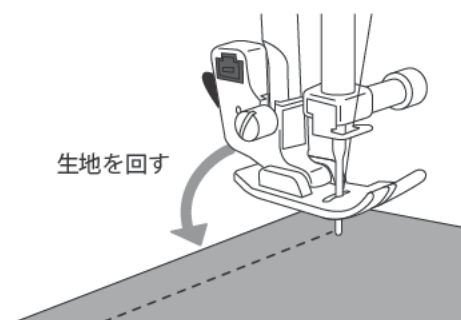
溝の奥にしっかり糸を通します。



縫い方向を変える



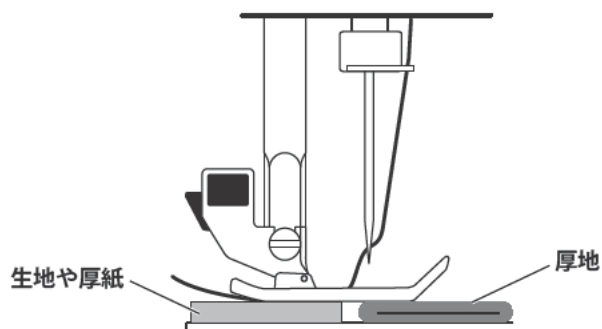
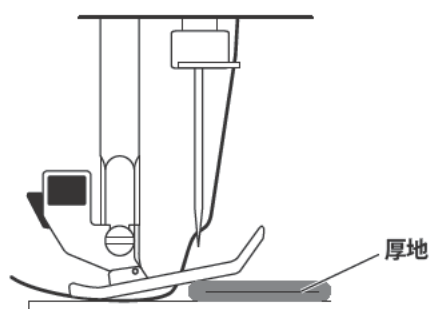
- 【1】 生地 corner まで縫い、ミシンを停止し、『はずみ車』を手前に回し、針を下げます。



- 【2】 『押え』を上げ、針を軸にして生地を回転させ縫い方向を変えます。再び、『押え』を下げ、縫い始めます。

厚地や段差を縫う

縫い始めや段差を縫うとき

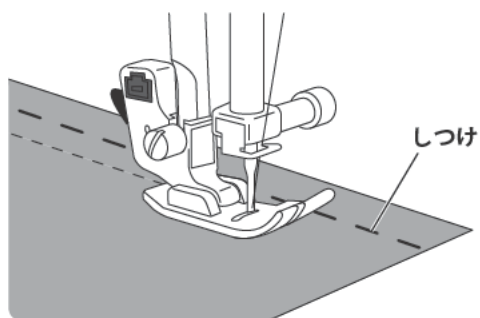


厚地を生地から縫い始めると『押え』が傾き、生地が進まなくなることがあります。

その場合、『押え』の下に生地と同じ厚さの生地や厚紙を置き、傾きをなくすと順調に縫い始めることができます。

*厚地を縫うときは、市販の家庭用ミシン針:16番をご使用されることをおすすめします。

伸縮生地を縫う



押え	模様表示		針振り幅調節 ダイヤル	縫い目長さ調節 ダイヤル
ジグザグ押え	25 〰〰〰	26 	16543210 0 ~ 7	4 3 4

- 【1】 『模様選択ダイヤル』で縫い模様を選択します。
- 【2】 あらかじめ縫い合わせる生地がずれないようにしつけをして、生地を引っ張らないように縫います。

*縫い目が飛ぶときは、市販の家庭用ニット用針とニット用糸をご使用ください。

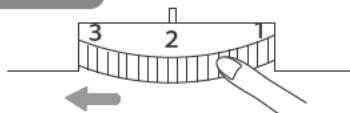


注意



- ・針先に注意する。ケガをする恐れがあります。
- ・縫い模様を選択のときは、針を上げる。針が折れ、ケガをする恐れがあります。
- ・縁かがり押えは、針振り幅調節ダイヤルの数字『5～7』以外は使用できません。
針が折れ危険です。
- ・押え交換時は、電源スイッチを『OFF』にする。
突然動く恐れがあります。

ポイント！



直線縫いよりも上糸調整ダイヤルを少し弱めにするときれいに縫えます。



注意



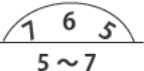
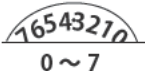
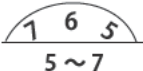
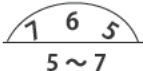
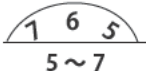
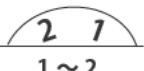
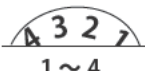
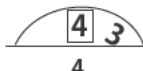
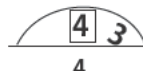
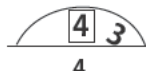
ジグザグ押え

縁かがり押え



左図の縫い模様は縁かがり押えは使用できません。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。
ジグザグ押えをご使用ください。

生地の手厚さと各種の設定

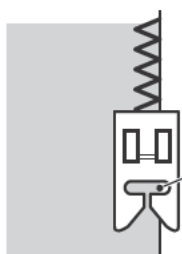
	薄地	普通地		厚地		伸縮地
模様 番号	3 	2 	14 	14 	19 	15 
針振り幅調節 ダイヤル						
縫い目長さ調節 ダイヤル						
押え	 ジグザグ押え	 ジグザグ押え	 縁かがり押え	 ジグザグ押え	 縁かがり押え	 ジグザグ押え
押え圧力調節 ダイヤル	1 ~ 2	2 ~ 3		2 ~ 3		1 ~ 2

●縫いかた

上図のいずれかの縫い模様を選びます。

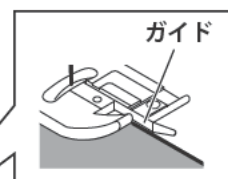
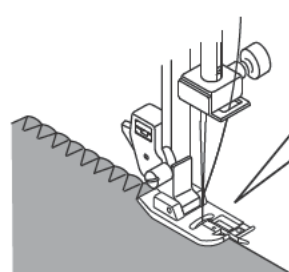
『はずみ車』を手前に回して、針が右に来たときに、生地の手先より針が少し外れるように生地を置き、『押え上げレバー』を下げます。

【ジグザグ押え使用時】



右側で針が刺さる位置
(生地の手先より針が少し外れる位置)

【縁かがり押え使用時】



縁かがり押えの『ガイド』を
生地の手先に合わせる。

スモッキング



注意

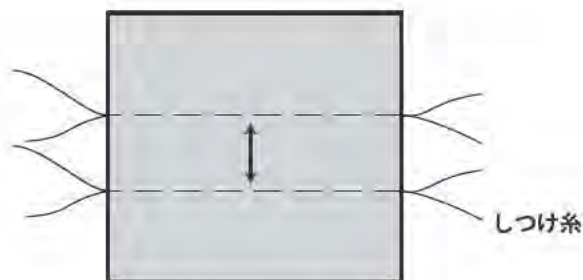


・押え交換時は、電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

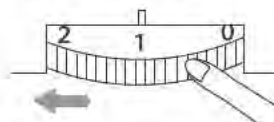


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

押え	模様表示	針振り幅調節 ダイヤル	縫い目長さ調節 ダイヤル
ジグザグ押え	1	16543210 0~7	4 3 4

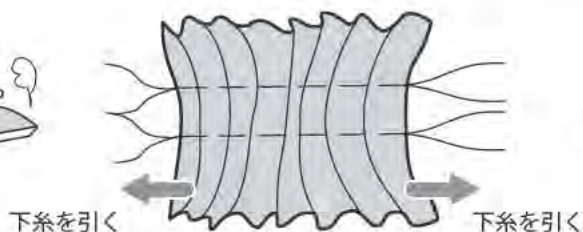


ポイント!



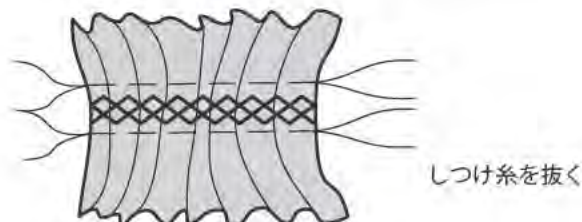
上糸調整ダイヤルを
弱くします。

【1】 スモッキングの模様を入れる両脇にしつけを
1cmの間隔で直線縫いをします。



【2】 しつけ糸の下糸を引いてギャザーを寄せアイロンで整えます。

押え	模様表示	針振り幅調節 ダイヤル	縫い目長さ調節 ダイヤル
サテン押え	23	16543 3.5~7	4 3 4



【3】 『サテン押え』に交換し、しつけ糸の間にスモッキング模様を縫い、
しつけ糸を切り、外します。

アップリケ

市販や自作のアップリケ布を別生地の上に縫い付けます。



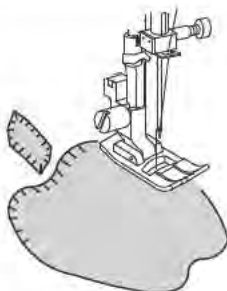
注意



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

押え	模様表示	針振り幅調節 ダイヤル	縫い目長さ調節 ダイヤル
ジグザグ押え	15 16	16543 3.5~7	4 3 4

*縫い方向を変えるときは、アップリケ布の
外側に針を刺し、押えを上げ、生地全体を
回します。



【1】 アップリケ布を生地にしつけ、
または布用ボンドで仮止めします。

【2】 アップリケ布の回りを縫い付けます。

パッチワーク (つき合わせ)

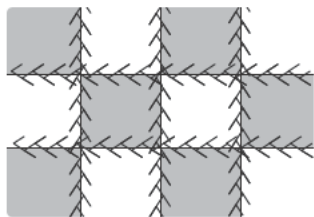
色々な生地をつなぎ合わせ、装飾や衣類の破れなどの補修にも用います。



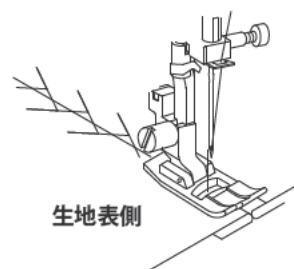
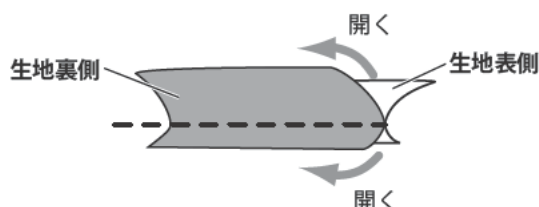
注意



・針先に注意する。ケガをする恐れがあります。



押え	模様表示			針振り幅調節 ダイヤル	縫い目長さ調節 ダイヤル
 ジグザグ押え	17 	23 	24 	 3.5 ~ 7	 4



【1】 2枚の生地を中表にし、直線縫いで縫い合わせます。

【2】 縫い合わせを開きます。

【3】 両方の生地に模様がまたがるように縫います。

ゴムテープ付け

袖口などのゴム付けをきれいに縫えます。



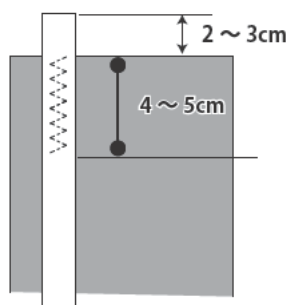
注意



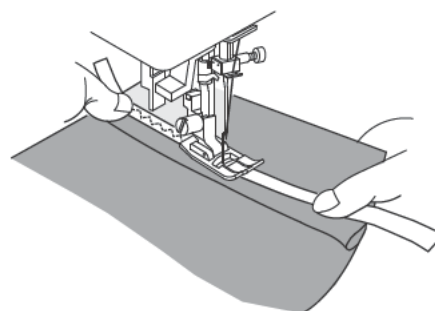
・針先に注意する。ケガをする恐れがあります。

押え	模様表示	針振り幅調節 ダイヤル	縫い目長さ調節 ダイヤル
 ジグザグ押え	3 	 5 ~ 7	 1 ~ 2

【1】 ゴムテープは用途の長さより4～6cm 長めに切ります。



【2】 生地に対しゴムテープを2～3cm はみ出し、4～5cmを縫いミシンを止めます。
(4～5cmを縫っている間は、ゴムテープは伸ばさないでください)



【3】 縫い終わり側のゴムテープ端を伸ばして、生地と一緒に押えながら縫います。

*ゴムテープは伸ばしたまま生地がシワにならないように縫い付けます。

*目飛びをするときは、針をニット用針に交換してください。

*生地の裏に糸がたるんでいる場合は、上糸の糸調子を強くします。

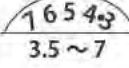
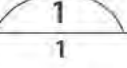


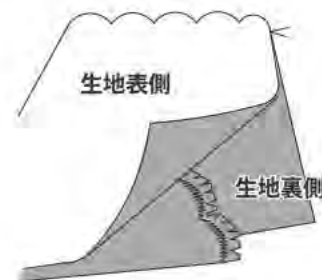
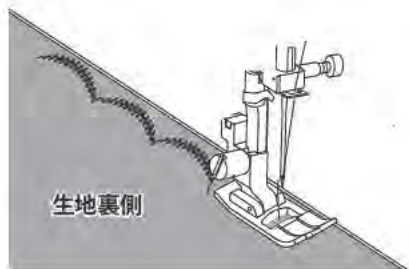
注意



・押え交換時は、電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

押え	模様表示	針振り幅調節 ダイヤル	縫い目長さ調節 ダイヤル
 ジグザグ押え  サテン押え	10 	 1 6 5 4 3 3.5 ~ 7	 1 1



【1】 2枚の生地を中表に合わせ、
生地端にそって縫い合わせます。

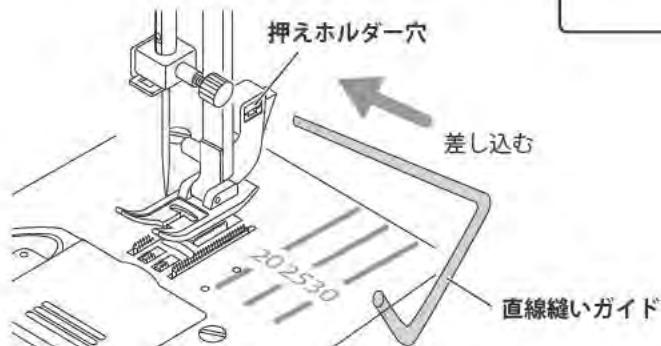
【2】 縫い目から3mmのところを輪郭に
そって生地端を切ります。

*切り落とした後の縫いしろに、
細かく切り込みを入れておきます。

【3】 生地を内側に返して輪郭を整えます。

直線縫いガイド

直線縫いガイドを使用すると、縫い目の目安になります。



注意

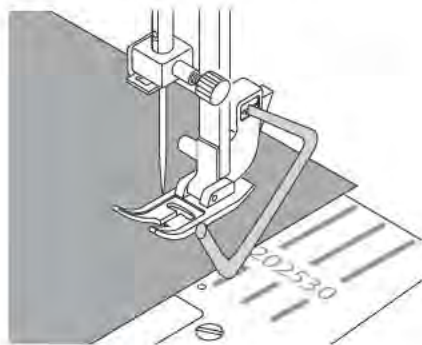


・押え交換時は、電源スイッチを
『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



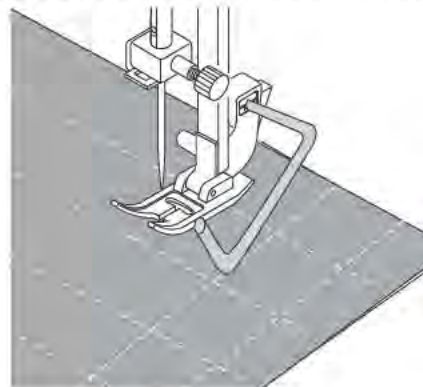
・針先に注意する。ケガをする恐れがあります。

『押えホルダー穴』に『直線縫いガイド』を
差し込みます。
(『押えホルダー』の右から差し込みます)



● 端縫い

針板の数字を目安に『直線縫いガイド』の
位置を定め縫いしろの端と『直線縫いガイド』が
合うように縫います。



● キルティング

縫い終わった縫い目と『直線縫いガイド』が
合うように縫います。

まつり縫い（ブラインドステッチ）

スカートやズボンの裾上げをするときに用います。
生地表面に目立たない縫い目です。



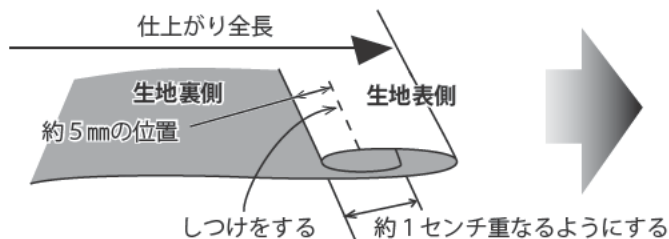
注意



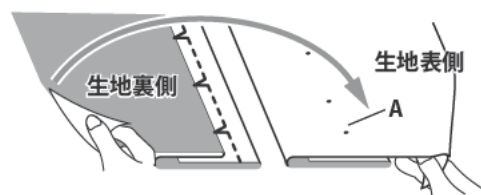
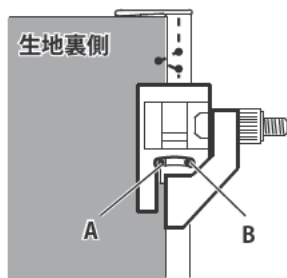
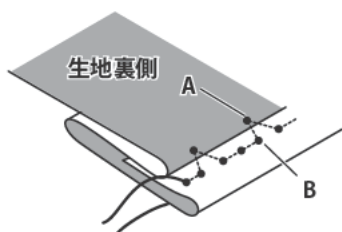
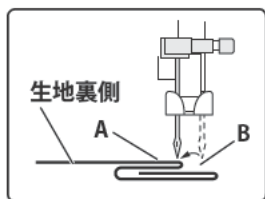
・押え交換時は、電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

押え	模様表示	針振り幅調節 ダイヤル	縫い目長さ調節 ダイヤル
まつり縫い押え 	4 5 	 1 6 5 5 ~ 7	 2 1 1 ~ 2



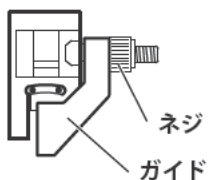
【1】 生地を図のように折り、しつけをします。



【3】 生地を返し、しつけ糸を抜きます。

- 【2】 『はずみ車』を手前に回し、針を左側でゆっくり下げ、生地折り山(A)にわずかに針がかかるよう、生地位置を合わせて縫います。
(針がかかる量が少ないほど、表面に目立ちにくくなります。また、生地折り山に針がかからないと仕上がりが目飛びをします)

まつり縫い押え



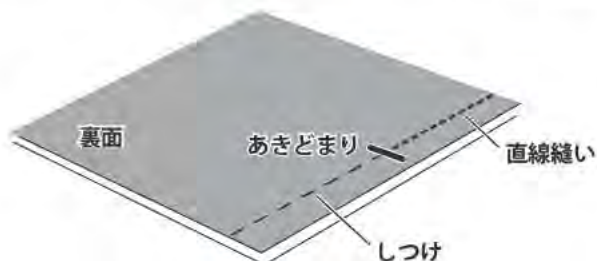
『まつり縫い押え』の『ガイド』が生地の折山に来るように、『ネジ』を回し、ガイドの位置を調節します。

ファスナー付け（突き合わせ）

注意



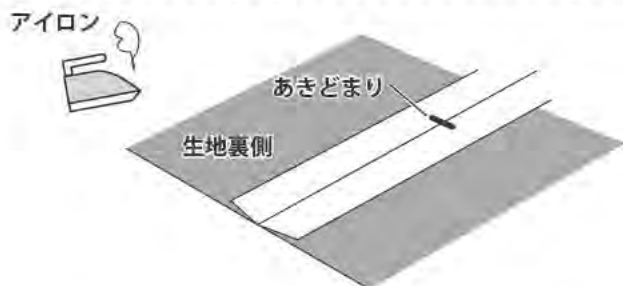
- ・ファスナー付け押えは、模様選択ダイヤルを【1】の直線縫いに合わせ、針振り幅調節ダイヤルの数字『3.5』以外は使用できません。
針が折れ危険です。
- ・ミシンを電動で動かす前に、はずみ車を手前にゆっくり回し、針が押えに当たらないことを確認してください。
- ・押え交換時は電源スイッチを『OFF』にしてください。突然動くとケガをする恐れがあります。
- ・針先に注意してください。ケガをする恐れがあります。



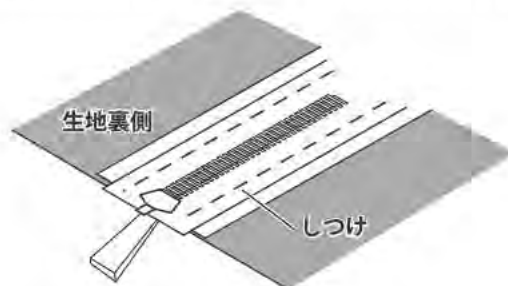
押え	模様表示	針振り幅調節ダイヤル	縫い目長さ調節ダイヤル
ジグザグ押え	1		

【1】 縫い模様を中基線の直線縫いにします。中表に2枚の生地を合わせ、ファスナーのあき止まりまで直線縫いをします。ファスナーを取り付ける部分はしつけをしておきます。

*しつけとは、仮縫いですので『縫い目長さ調節ダイヤル』の数字は『4』に合わせてください。



【2】 縫い合わせを開き、アイロンをかけます。

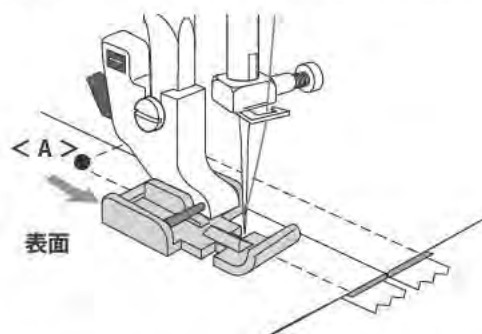


【3】 開いた部分にファスナーの裏面が上になるようにしつけをします。

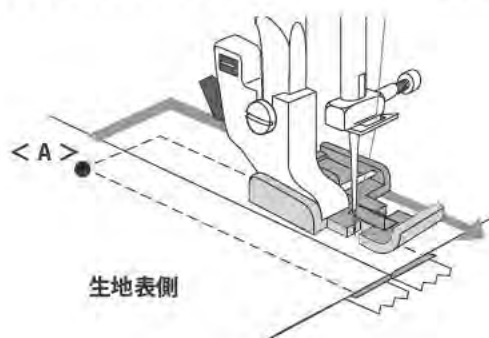
押え	模様表示	針振り幅調節ダイヤル	縫い目長さ調節ダイヤル
ファスナー付け押え	1		

【4】 『ファスナー付け押え』に交換します（P9 参照）

*ファスナーの左側を縫うときは、『ファスナー付け押え』の右部分を使用します。



【5】 ファスナーの左を＜A＞から矢印の方向に縫います。生地突き合わせから7～10mm離して縫います。



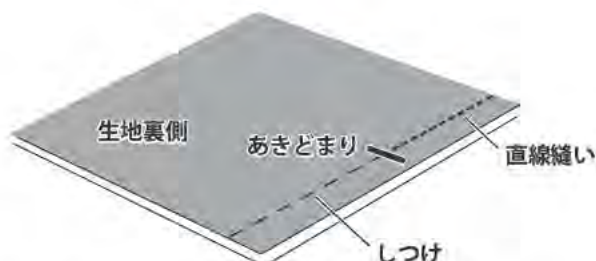
【6】 『ファスナー付け押え』の左側に付け替え、ファスナーの右を＜A＞から矢印の方向に縫います。しつけ糸を抜きます。

ファスナー付け（脇あき）

注意

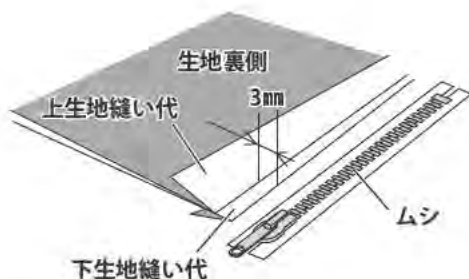


- ・ファスナー付け押えは、模様選択ダイヤルを【1】の直線縫いに合わせ、針振り幅調節ダイヤルの数字『3.5』以外は使用できません。
針が折れ危険です。
- ・ミシンを電動で動かす前に、はずみ車を手前にゆっくり回し、針が押えに当たらないことを確認してください。
- ・押え交換時は電源スイッチを『OFF』にしてください。突然動くとかがをする恐れがあります。
- ・針先に注意してください。かがをする恐れがあります。



押え	模様表示	針振り幅調節ダイヤル	縫い目長さ調節ダイヤル
ジグザグ押え	1	165432 0~7	3 2 1 1~4

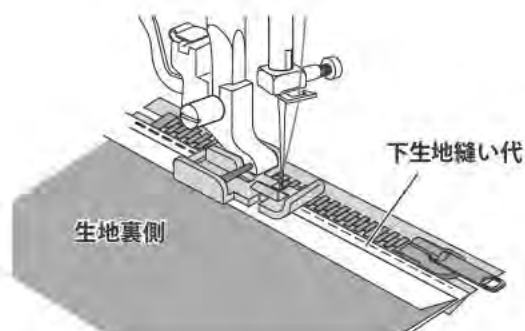
- 【1】 縫い模様を中基線の直線縫いにします。中表に2枚の生地を合わせ、ファスナーのあき止まりまで直線縫いをします。ファスナーを取り付ける部分はしつけをしておきます。
*しつけとは、仮縫いですので『縫い目長さ調節ダイヤル』の数字は『4』に合わせてください。



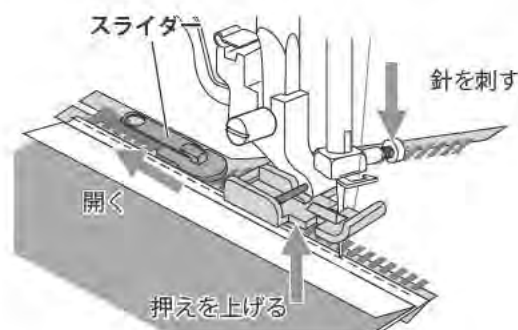
- 【2】 上生地を縫い代まで割り、下生地は縫い代を3mm残して折ります。折り山の下にファスナーのムシを合わせ、しつけをします。
(スライダーを手前に倒しておきます)

押え	模様表示	針振り幅調節ダイヤル	縫い目長さ調節ダイヤル
ファスナー付け押え	1	4・3 3.5	3 2 2~4

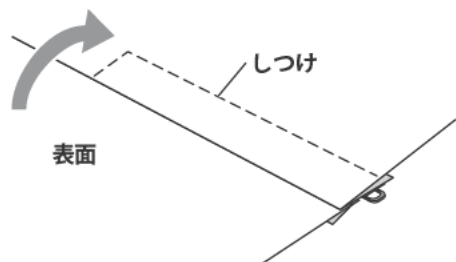
- 【3】 『ファスナー付け押え』に交換します。(P9 参照)
*ファスナーの左側を縫うときは、
『ファスナー付け押え』の右部分を使用します。



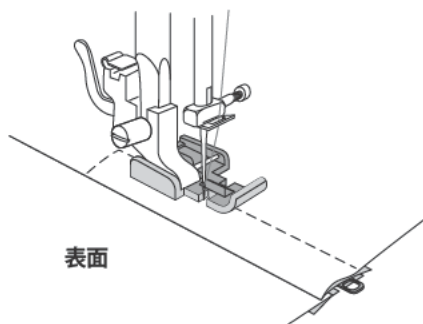
- 【4】 ファスナー左部分をあきどまりから下生地縫い代に縫い付けます。



- 【5】 ファスナーのスライダー部分まで針がきたら、ミシンを一度止め針を生地に刺します。『ファスナー付け押え』を上げ、スライダーを下げ、ムシを開き残りを縫います。



- 【6】 上生地を開き、ファスナーを閉じてからあきどまりとファスナー右部分をしつけをします。



- 【7】 『ファスナー付け押え』を左側に付け替え、裏に隠れたファスナー右部分を縫い付けます。しつけを抜きます。

オープントゥキルト押え



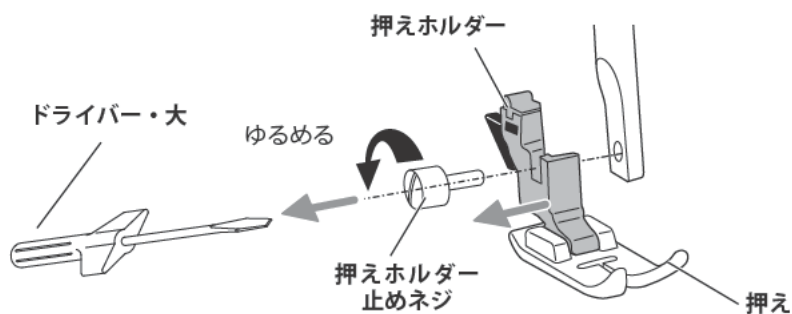
注意



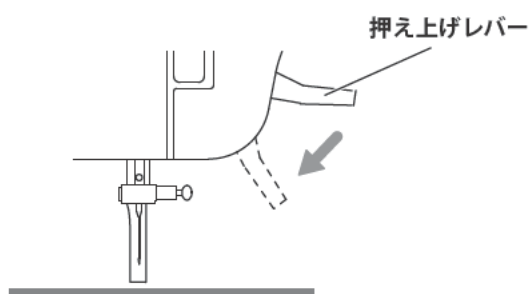
- ・押え交換時は、電源スイッチを『OFF』にする。突然動くとかガをする恐れがあります。
- ・針先に注意する。ケガをする恐れがあります。
- ・オープントゥキルト押えは、模様選択ダイヤルを【1】の直線縫いに合わせ、針振り幅調節ダイヤルの数字『3.5』以外は使用できません。針が折れ危険です。
- ・専用の付属品をご使用ください。ミシンの故障の原因になる恐れがあります。

押え	模様表示	針振り幅調節ダイヤル	縫い目長さ調節ダイヤル
 オープントゥキルト押え	1	 3.5	 1 ~ 4

*『オープントゥキルト押え』を使用するときは、下糸をあらかじめ出して置いてください (P17 下糸の引き上げかたを参照)

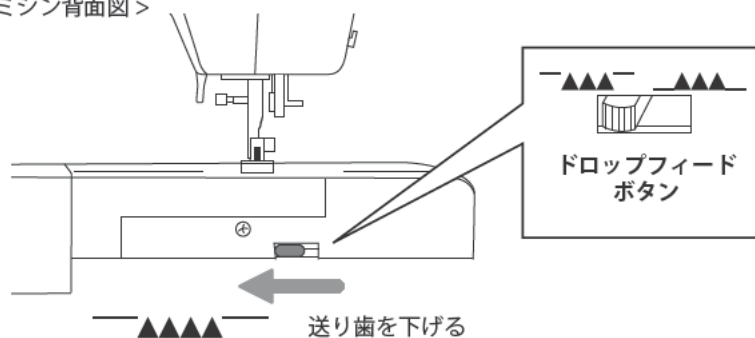


- 【1】 『押えホルダー止めネジ』を『ドライバー・大』でゆるめ、『押えホルダー』外します。

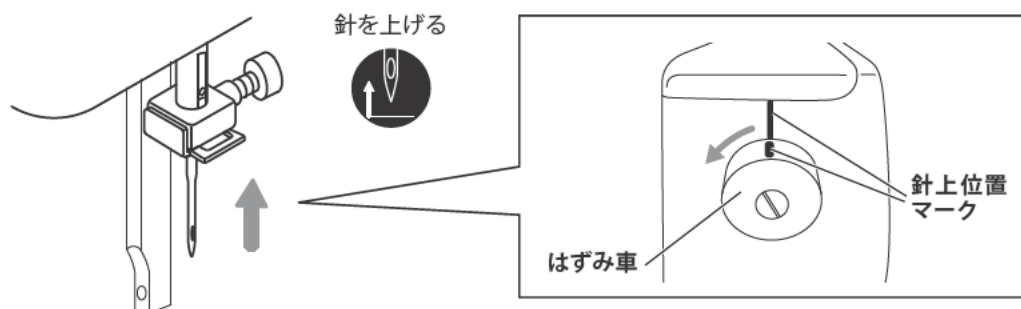


- 【2】 『押え上げレバー』を下げます。

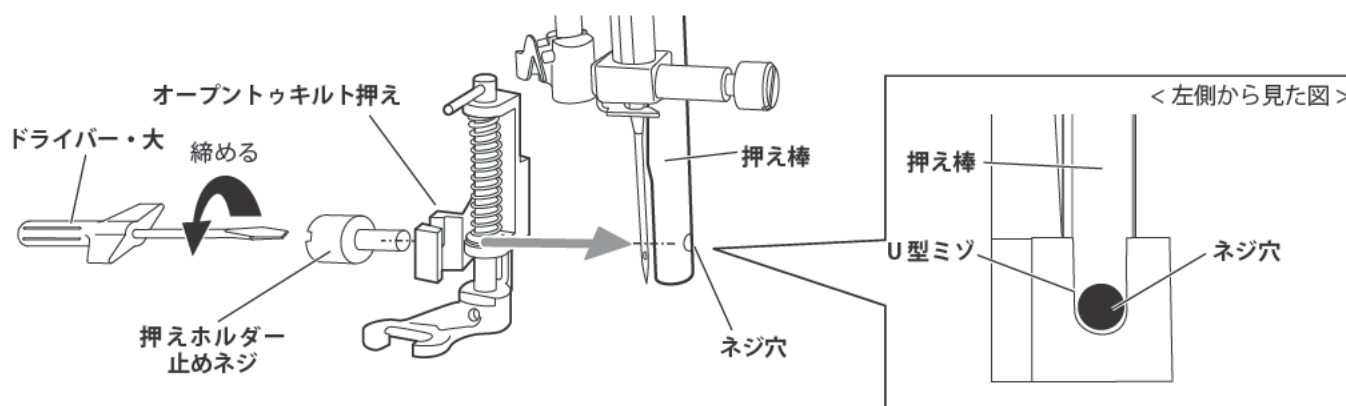
< ミシン背面図 >



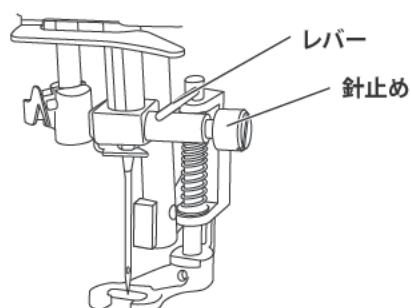
- 【3】 補助テーブルを外し、ミシン背面側の『ドロップフィードボタン』を左にスライドさせ、送り歯を下げます。



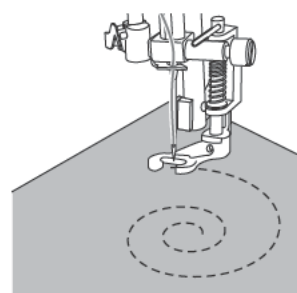
- 【4】 『はずみ車』を手前に回し、『針上位置マーク』を合わせます。



- 【5】 『オープントゥキルト押え』を取り付け、『押えホルダー止めネジ』を『ドライバー・大』で強く締めます。
『オープントゥキルト押え』のU型ミゾと『ネジ穴』の位置を合わせます。
*付属の『ドライバー・大』をご使用ください。



- 【6】 『オープントゥキルト押えのレバー』が『針止め』に乗っているか確認します。



- 【7】 生地を動かし、自由に縫います。

1/4 インチキルト押え

1/4 インチ (6.4mm) や 1/8 インチ (3.2mm) の縫い代で縫うことができる押えです。



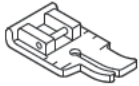
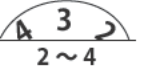
注意

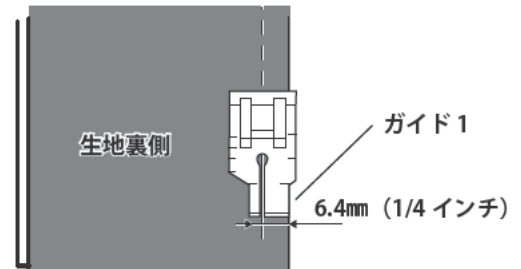
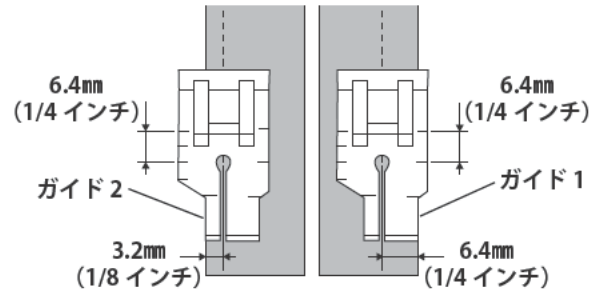
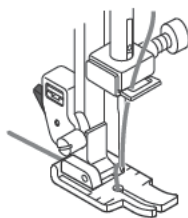
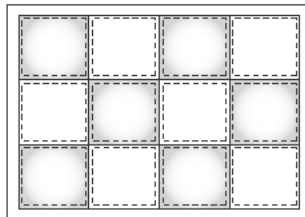


- ・押え交換時は、電源スイッチを『 OFF 』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。
- ・1/4 インチキルト押えは、模様選択ダイヤルを【 1 】の直線縫いに合わせ、
針振り幅調節ダイヤルの数字『 3.5 』以外は使用できません。
針が折れ危険です。



- ・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

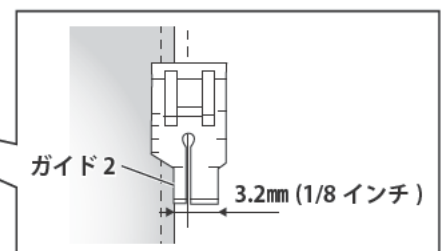
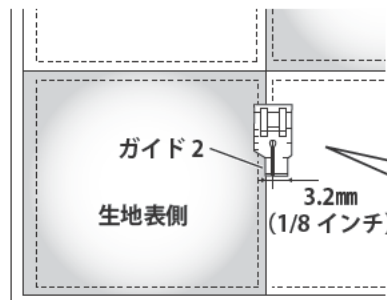
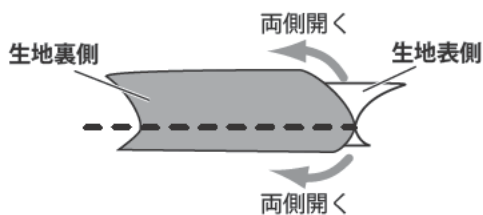
押え	模様表示	針振り幅調節 ダイヤル	縫い目長さ調節 ダイヤル
 1/4 インチキルト押え	1		



【1】『1/4 インチキルト押え』に交換します。

【2】2枚の生地を中表にします。

【3】生地の端を『1/4 インチキルト押え』の『ガイド1』に当てながら縫います。

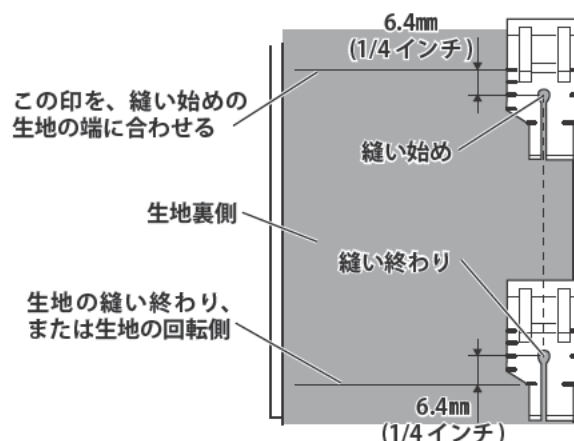


【4】縫い合わせを開きます。

【5】生地の端を『1/4 インチキルト押え』の『ガイド2』に当てながら縫います。

● 正確な縫い代で仕上げる場合

生地の端から 6.4mm の位置で、縫い始めや縫い終わり、生地の回転を行います。



ボタンホール縫い

ボタンの大きさにあったボタンホールを縫うことができます。



注意



・押え交換時は、電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



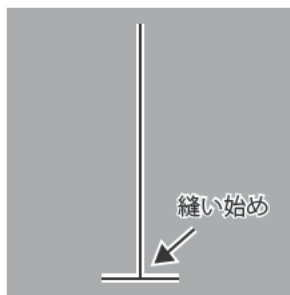
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

縫い損じを防ぐため、製品に縫う前に必ず別生地でボタンホールを作り、ボタンが通るかどうか確認ください。

ポイント

伸縮性の生地や薄い生地は不織布（芯地）を裏に貼るとよりきれいに仕上がります。

押え	模様表示	針振り幅調節 ダイヤル	縫い目長さ調節 ダイヤル
 ボタンホール押え	 1-Step BH	 1 6 5 4 3 3.5 ~ 7	 2 7 □の範囲



【1】 ボタンホールを作る生地に印を付けます。

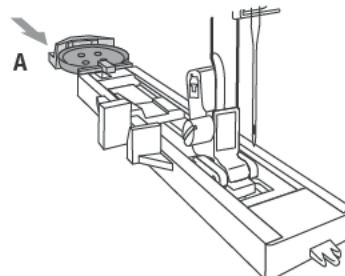
*印を付けておくと、縫う方向を間違えません。

縫い目長さ調節ダイヤル



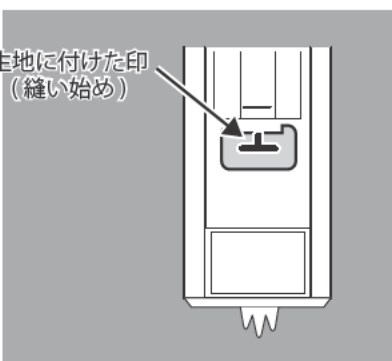
【2】 『縫い目長さ調節ダイヤル』を□の範囲に合わせます。

*ボタンホール押えは、押え上げレバーを2段目まで上げて交換してください。（P9 参照）



【3】 ボタンを『ボタンホール押え』にセットします。
*『ボタンホール押え』の台はAの部分のみ前後に動かします。
*ボタンに厚みがあるときは、ボタンの厚み分を広げてください。

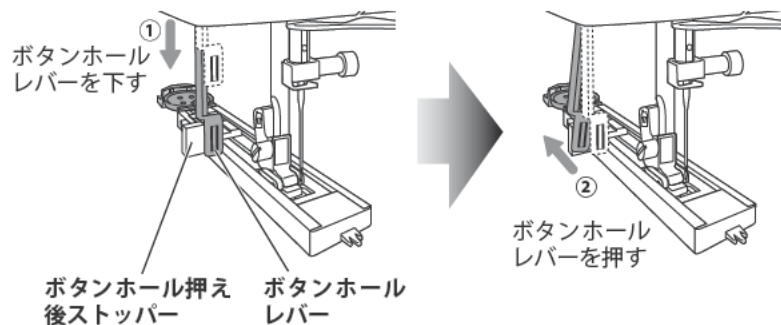
生地に付けた印
（縫い始め）



【4】 印を付けた生地の縫い始めを左図のように合わせてボタンホール押えの下に置きます。

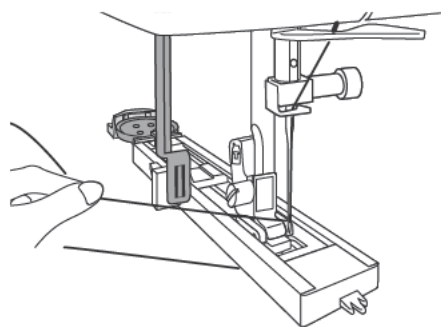
『ボタンホール押え』を『押え上げレバー』で下げます。

*生地が斜めになっていると、ボタンホールが生地に
対し斜めに作られますのでご注意ください。



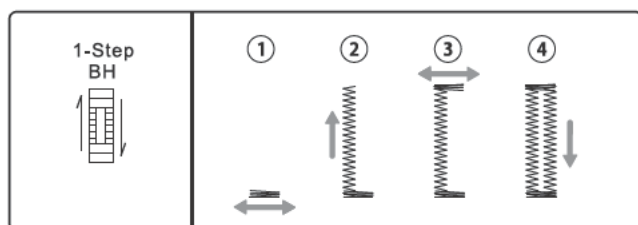
【5】『ボタンホールレバー』を下までいっぱい下げ、『ボタンホールレバー』を後側に押します。

*『ボタンホールレバー』を後側に押さない、ボタンホールになりません。



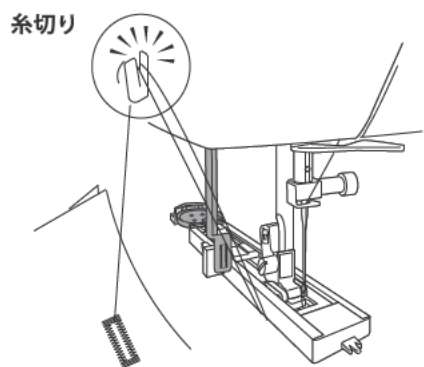
【6】上糸を軽く持ち、『フットコントローラー』を軽く踏み込み、縫い始め、針が5回ほど上下したところで一度ミシンを止め、持っている上糸を切ります。再度、『フットコントローラー』を踏み込み、縫い始めます。

*このとき『ボタンホールレバー』には触れないでください。



【7】ボタンホールは完成したら、『フットコントローラー』から足を離します。

*ボタンホールが完成しても、ミシンは自動では止まりません。ボタンホールが完成したところで『フットコントローラー』から足をはなして、ミシンを止めてください (P11 電源を入れるを参照)



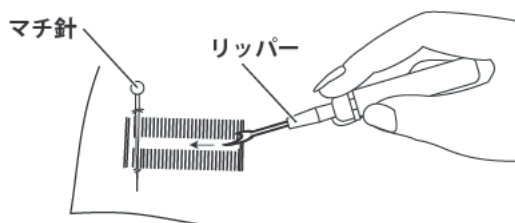
【8】『押え上げレバー』で『ボタンホール押え』を上げ、糸切りで糸を切ります。



注意



・リッパーの先端に手をそえない。ケガをする恐れがあります。



【9】ボタンホールの穴に付属の『リッパー』を刺し、押しながらボタン穴を切り開きます。

*マチ針をかんぬき部分に刺しておくと、ボタンホールの切り開き過ぎを防げます。

針の取り替えかた



注意



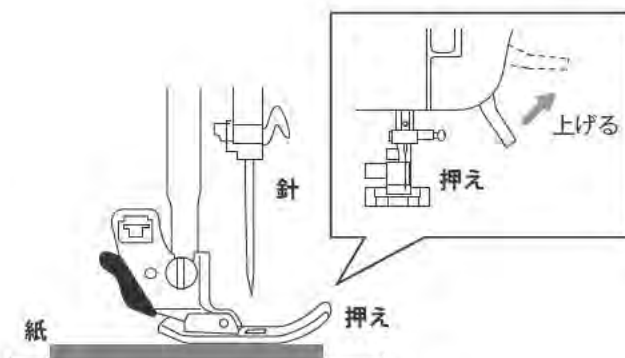
・電源スイッチを『OFF』にし電源コードプラグをコンセントから抜く。
突然動くとケガをする恐れがあります。



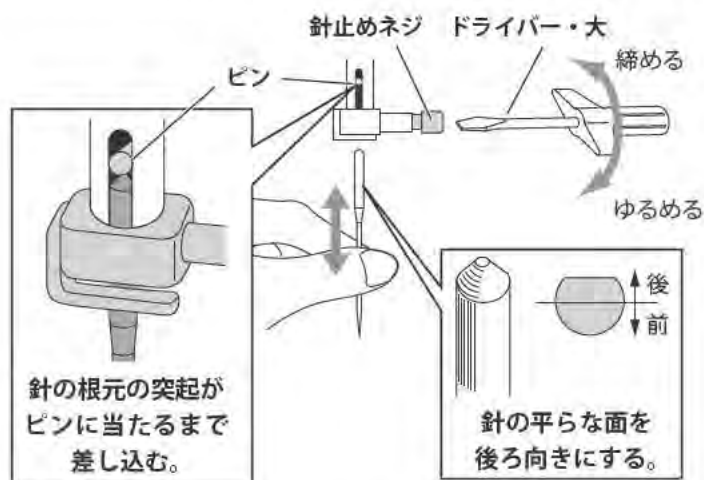
・針先に注意する。ケガをする恐れがあります。
・針は平らな面を後ろ向きに付ける。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。また、縫い目ができず縫えません。
・針を交換するときは専用の付属品で交換する。
縫っているときに針が抜け、ケガをする恐れがあります。



【1】『はずみ車』を手前に回し、針を一番上にします。



【2】『押え上げレバー』を上げ、針が穴に落ちないように『押え』の下に生地や紙などを敷き、『押え上げレバー』を下げます。



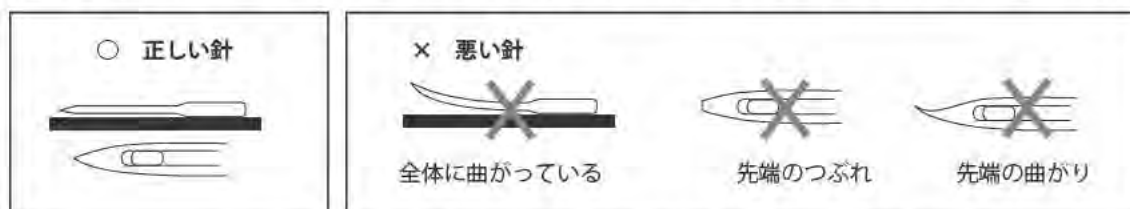
【3】 付属の『ドライバー・大』を使用し、針を交換します。

外す：取り付けられている針を持ち、『針止めネジ』をゆるめ、針を下に引き抜きます。

付ける：平らな面を自分から見えないように持ち、『ピン』に当たるまで差し込み、『針止めネジ』を締めます。

正しい針の選びかた

- ・曲がった針は使用しないでください。
- ・家庭用ミシン針 (HA × 1) をご使用ください。
- ・目飛び、糸絡みがある場合は、ミシンに付いている針先が曲がっていたり、つぶれていないかを確認してください。
- ・不良の針を使い続けると、きれいに縫えないばかりでなく、針板や釜に傷をつけます。新しい針に交換してください。



*ガラスのような平らな面に針を置き、針の曲がり具合を確認してください。

ボビンケースのそうじ

● ボビンケースの外しかた

ミシン本体の汚れは、やわらかい生地で乾拭きしてください。

(住宅用洗剤、漂白剤、ベンジン、シンナー、化学雑巾は表面の色が変わるため、ご使用しないでください)



注意

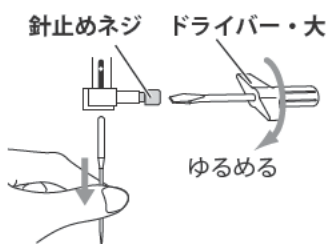


・電源スイッチを『OFF』にし電源コードプラグをコンセントから抜く。
突然動くとかげをする恐れがあります。

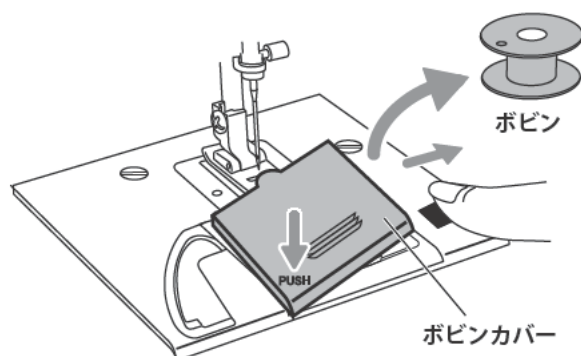


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

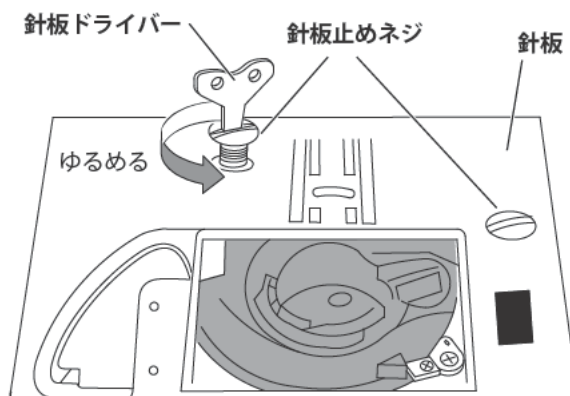
準備



- [1] 『はずみ車』を手前に回し、針を一番上にします。
- [2] 『押え』を上げ、『押えホルダーボタン』を押して『押え』を外します。
- [3] 付属の『ドライバー・大』で『針止めネジ』をゆるめ、針を下に引き抜きます。(P9・P 36 参照)

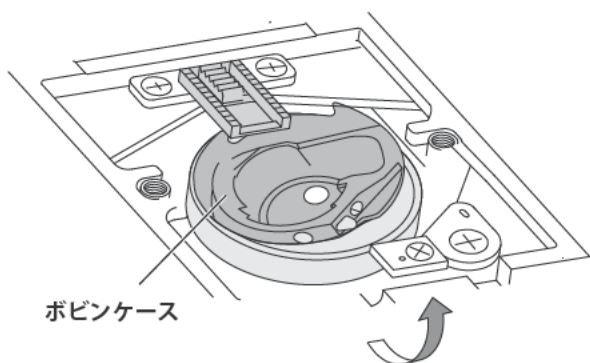


- [1] 『ボビンカバー』を外し、『ボビン』を取り出します。

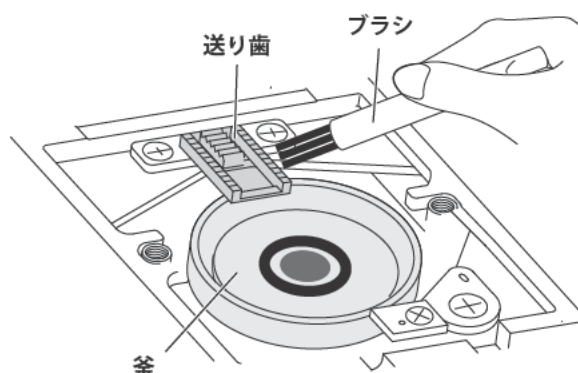


- [2] 『針板止めネジ』を『針板ドライバー』でゆるめ、『針板』を外します。

『針止めネジ』をミシン内部に落とさないよう注意してください。



- [3] 『ボビンケース』を手前に引き抜きます。



- [4] 付属の『ブラシ』で『ボビンケース』や『送り歯』のミゾ、『釜』に付いている糸くずやホコリを取り除きます。

● ボビンケースの付けかた



注意



・電源スイッチを『OFF』にし電源コードプラグをコンセントから抜く。
突然動くとケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

準備

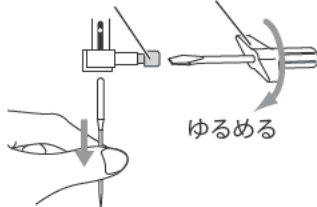


針を上げる



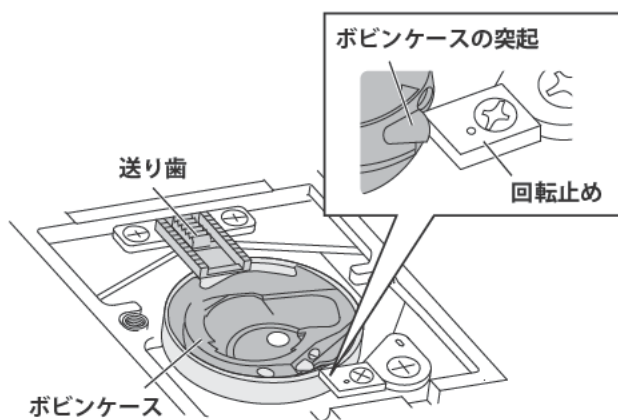
押え

針止めネジ ドライバー・大



ゆるめる

- 【1】『はずみ車』を手前に回し、針を一番上にします。
- 【2】『押え』を上げ、『押えホルダーボタン』を押して『押え』を外します。
- 【3】付属の『ドライバー・大』で『針止めネジ』をゆるめ、針を下に引き抜きます。(P9・P36 参照)



送り歯

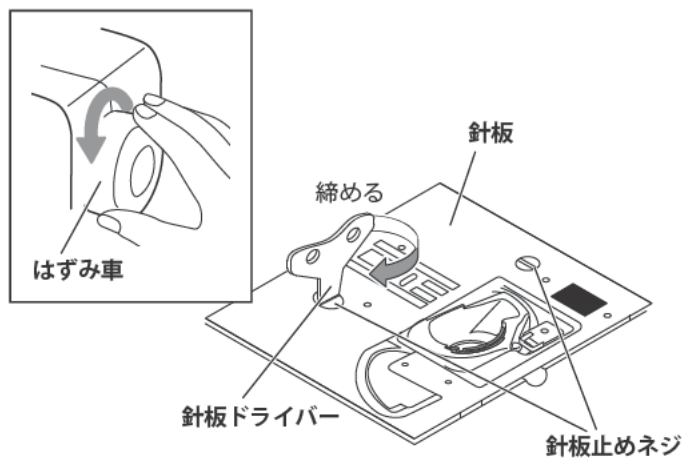
ボビンケースの突起

回転止め

ボビンケース

- 【1】『ボビンケース』の突起が釜の回転止めに合うようにセットします。

*『釜』に『ボビンケース』を入れたときに水平になるようにします。



はずみ車

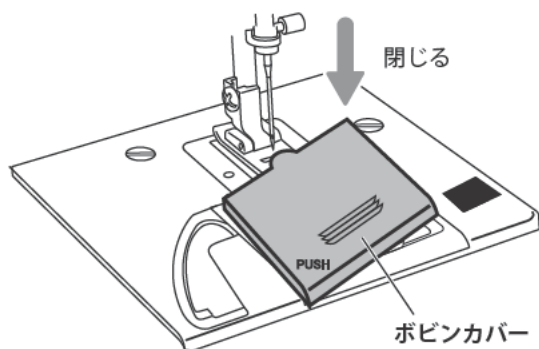
締める

針板

針板ドライバー

針板止めネジ

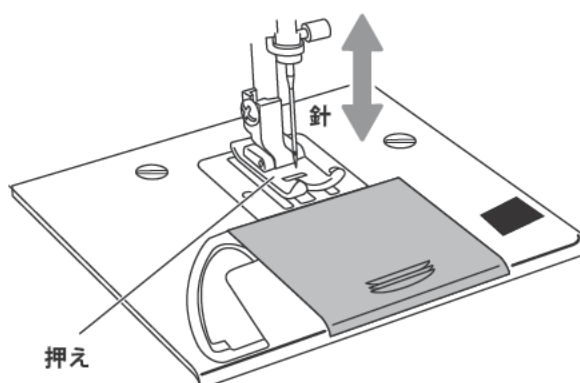
- 【2】『はずみ車』を手前に回し、スムーズに回るか確認する。スムーズに回ることが確認できたら『針板止めネジ』を付属の『針板ドライバー』で締め、『針板』を取り付けます。



閉じる

ボビンカバー

- 【3】『ボビンカバー』を閉じます。



押え

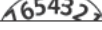
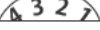
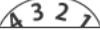
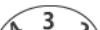
針

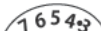
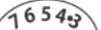
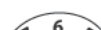
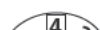
- 【4】『針』と『押え』を取り付け、『はずみ車』を手前に回し、『針』が『針板』の針穴に正しく刺さることを確認します。

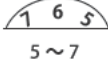
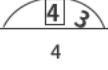
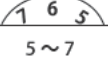
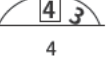
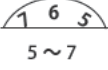
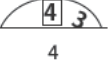
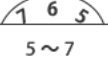
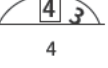
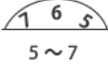
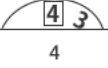
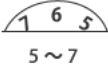
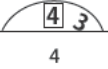
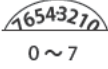
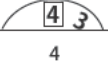
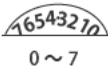
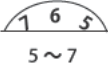
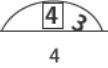
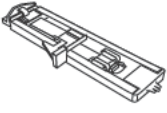
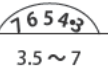
(押えの取り付け方法：P9 参照／針の取り付け方法：P36 参照)

縫い模様一覧及び詳細

それぞれの縫い模様の押えや針振り調節ダイヤル、縫い目長さ調節ダイヤルは、表を参照してください。

模様表示	押え	針振り幅調節 ダイヤル	縫い目長さ調節 ダイヤル
1 -----	 ジグザグ押え	 1 ~ 7	 1 ~ 4
	 直線押え		
	 フリーモーション キルト押え	 3.5	 1 ~ 4
	 ファスナー付け押え  1/4 インチキルト押え	 3.5	 2 ~ 4
2 	 ジグザグ押え	 0 ~ 7	 1 ~ 4
3 	 ジグザグ押え	 5 ~ 7	 1 ~ 2
4 	 まつり縫い押え	 5 ~ 7	 1 ~ 2
5 	 まつり縫い押え	 5 ~ 7	 1 ~ 2
6 	 ジグザグ押え	 0 ~ 7	 1 ~ 4
7 	 ジグザグ押え	 1 ~ 7	 1 ~ 4
8 	 ジグザグ押え	 1 ~ 7	 1 ~ 4
	 縁かがり押え		
9 	 ジグザグ押え	 3.5 ~ 7	 1

模様表示	押え	針振り幅調節 ダイヤル	縫い目長さ調節 ダイヤル
10 	 ジグザグ押え  サテン押え	 3.5 ~ 7	 1
11 	 ジグザグ押え  サテン押え	 3.5 ~ 7	 1
12 	 ジグザグ押え	 7	 4
13 	 ジグザグ押え	 7	 4
14 	 ジグザグ押え  縁かがり押え	 5 ~ 7	 4
15 	 ジグザグ押え	 5 ~ 7	 4
16 	 ジグザグ押え	 5 ~ 7	 4
17 	 ジグザグ押え	 5 ~ 7	 4
18 	 ジグザグ押え  縁かがり押え	 5 ~ 7	 4

模様表示	押え	針振り幅調節 ダイヤル	縫い目長さ調節 ダイヤル
19 	 ジグザグ押え  縁かがり押え	 5 ~ 7	 4
20 	 ジグザグ押え	 5 ~ 7	 4
21 	 ジグザグ押え	 5 ~ 7	 4
22 	 ジグザグ押え	 5 ~ 7	 4
23 	 ジグザグ押え	 5 ~ 7	 4
24 	 ジグザグ押え	 5 ~ 7	 4
25 	 ジグザグ押え	 0 ~ 7	 4
26 	 ジグザグ押え	 0 ~ 7	 4
27 	 ジグザグ押え	 5 ~ 7	 4
1-Step BH 	 ボタンホール押え	 3.5 ~ 7	 □の範囲

不具合	原因	処理	頁
上糸が切れる	上糸、下糸のかけかたが間違っている。	上糸、下糸を正しくかけ直す。	13~17
	上糸の調子が強すぎる。	上糸の調子が合うまで、糸調子を弱める。	22
	ボビンケースや釜に糸くずが絡んでいる。	ボビンケースや釜に糸くずを取り除く。	37~38
	針が曲がっている。針先が欠けている。	新しい針に交換する。	36
	糸に結び目やコブがある。	糸に結び目やコブの部分を取り除く。	—
	針や糸が生地に合っていない。	生地に合った針と糸を使用する。	21
	種類の異なったボビンを使用している。	種類の合ったボビンを使用する。	4・42
	糸が劣化している。	新しい糸に取り替える。	36
下糸が切れる	下糸のかけかたが間違っている。	下糸を正しくかけ直す。	16~17
	種類の異なったボビンを使用している。	種類の合ったボビンを使用する。	4・42
	ボビンケースや釜に糸くずが絡んでいる。	ボビンケースや釜に糸くずを取り除く。	37~38
縫い目がとぶ	針の取り付けかたが間違っている。	正しく針を取り付ける。	36
	針が曲がっている。針先が欠けている。	新しい針に交換する。	36
	針や糸が生地に合っていない。	生地に合った針と糸を使用する。	21
	上糸のかけかたが間違っている。	上糸を正しくかけ直す。	13~14
生地がシワになる	上糸の調子が強すぎる。	上糸の調子が合うまで、糸調子を弱める。	22
	上糸、下糸のかけかたが間違っている。	上糸、下糸を正しくかけ直す。	13~17
	針や糸が生地に合っていない。	生地に合った針と糸を使用する。	21
生地が送らない	送り歯にホコリが溜まっている。	送り歯のホコリを取り除く。	37
	送り歯が下がっている。	送り歯をあげる（ドロップフィード）	7
ボタンホールができない	ボタンホールレバーを押していない。	ボビンケースレバーを下げた後、後側に押す。	35
	ボタンホールがくずれる。	模様を合わせなおす。	6

不具合	原因	処理	頁
模様の形がくずれる	ジグザグ押えを使用している。	サテン押えを使用する。	4・9
	押え圧力調整ダイヤルが弱い。	押え圧力調整ダイヤルを強くする。	7
生地裏の糸が タオル状になる	上糸の調子が強すぎる。	上糸の調子が合うまで、糸調子を弱める。	22
	上糸のかけかたが間違っている。	上糸を正しくかけ直す。	13~14
	上糸の調子が弱すぎる。	上糸の調子が合うまで、糸調子を強める。	22
回転が重い	送り歯にホコリが溜まっている。	送り歯のホコリを取り除く。	37
ミシンが動かない	電源コードプラグの差し込みが不十分。	電源コードプラグをしっかりと奥まで差す。	11
	電源スイッチが OFF になっている。	電源スイッチを ON にする。	11
	下糸巻き軸が右になっている。	下糸巻き軸を左にする。	19

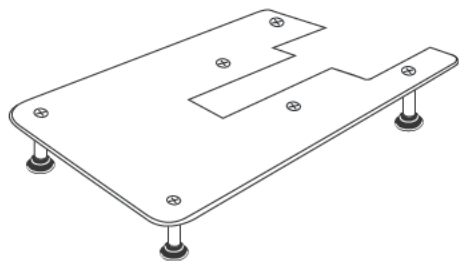
これらの現象、原因以外の不具合はミシン内部の調整や部品の磨耗による交換または電気系統の故障が原因となっている可能性があります。ご購入店またはお客様相談係 (P44 参照) にご相談ください。

仕様

型式：BB-986	サイズ：W64 × W31 × D24cm	重力：12.5kg	使用針：家庭用ミシン針 (HA × 1)
最大振幅：7mm	最大送り量：4.5mm	返し縫い送り量：3.5mm	ボタンホール：ワンステップ
定格電圧：交流 100V	定格周波数：50/60Hz	定格消費電力：95W	回転速度：900 ～ 1000rpm
フットコントローラー 型式：YC-480 定格：AC100V		ボビン：家庭用プラスチックボビン (高さ 11.5 × 直径 20.5mm)	
釜タイプ：水平全回転釜			

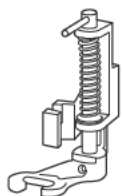
別売リアタッチメント

● ワイドテーブル



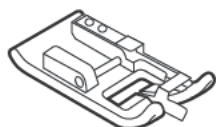
広い作業スペースで大きな縫物も安定して作業ができます。

● キルト押えセット



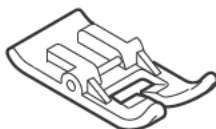
押えの前面が大きく開いているため、針もとが見やすくなっています。
フリーモーションキルトに最適です。

『オープントゥキルト押え』



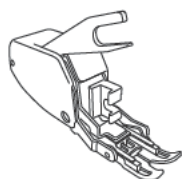
キルトのバインディングや洋裁の落としミシンのときに使用します。
ガイドが長いので、安定して縫うことができます。

『ガイド押え』



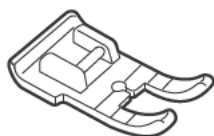
ビニールコーティングなどの滑りにくい生地の場合に、滑り良く縫い目が一定になり、きれいに仕上がります。

『スムーズ押え』



ニットや滑りやすい生地の場合、長い縫い合わせのときに発生する縫いズレなどに使用します。

『上送り押え』



押えの幅が 1/4 インチ (6.4mm) になっているので、縫い合わせや縫い目から 1/4 インチの間隔で縫い進めやすくなります。

『パッチワーク押え』

● 別売リアタッチメントの購入は、ご購入店またはお客様相談係 (P44 参照) にご相談ください。

修理サービス要領

●修理サービスのご相談

- 【1】 このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 【2】 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。
- 【3】 修理サービスについてお問い合わせやご不審のある場合は、ご購入店または、お客様相談係にお申しつけください。

●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

- 【1】 取扱説明書に基づいて、正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
 - イ. 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障、損傷したとき。
 - ニ. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
- 【2】 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によって元どおりに修復できないことがあります。
- 【3】 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。

お問い合わせまたはご相談先

ミシンについてのお問い合わせ、ご相談はご購入店のほか、下記の弊社「お客様相談係」でも承っておりますのでご遠慮なくお申し越してください。

株式会社 アックス ヤマザキ

フリーダイヤル

「お客様相談係」

0120-405-851

〒544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺 3-12-5

TEL.06-6717-5851 FAX.06-6741-7875

*住所および電話番号は都合により変更することがありますのでご了承ください。

*純正部品の購入についてのお問い合わせは、ご購入店のほか、上記の弊社「お客様相談係」におたずねください。

サービス工場のご案内

純正部品のご購入は、購入店または下記のサービス工場へお申し込みください。

ご購入頂きましたミシンは、下記の専門工場で点検修理等のサービスを致します。

なお、サービスには有償修理点検と無償修理点検とがあります。サービス工場にお問合せください。

*ミシンを工場へ送付されるときは、このミシンの箱と緩衝材（クッション）をご利用ください。

〒544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺 3-12-5 TEL:06-6717-5851 FAX:06-6741-7875



株式会社 アックス ヤマザキ ミシンサービス係 行き

月～金曜日 午前9:00～12:00 午後1:00～5:00

(土曜/日曜/祝祭日休み)

[illegible]

ミシン保証書

型 式	BB-986		機 械 番 号		ご購入後には※印欄への記入の有無をご確認下さい。 記入がない時はご購入日、またはお届け日が証明できる伝票等を添付してください。 本書は再発行致しません。 紛失しないように大切に保管して下さい。
※お買い上げ日	年 月 日	保 証 期 間	お買い上げ日より本体 1 年		
※お客様	ご住所	〒 TEL 様方			
	フリガナ ご芳名	様			
※販売店	住 所 店 名	〒 TEL			

無料修理保証に付いて

1. 無料修理保証期間（ご購入の日から1ヵ年間）内に故障が発生した場合は、無料で故障箇所の修理調整、または故障部品の交換をいたします。
2. 無料修理保証は表記ミシン頭部のみとし、ケース、針及び電球、消耗部品を除きます。
3. 無料修理保証をお受けいただくときは、この保証書を提示してください。
4. 保証機種がコンパクトミシンまたは、軽量可搬のポータブルミシン等であるときは、そのミシンを購入店へご持参、またはご相談ください。

無料修理保証が受けられない場合

次のような場合には、保証期間内でも保証の対象とはなりません。

1. 「取扱説明書」に記載してある使用方法または、保存方法と異なる方法によったため不調、故障または損傷したとき。
2. 浸水、冠水、火災、天災地変により不調故障または損傷したとき。
3. ご購入店、または当社で指定した販売店、サービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
4. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
5. 特別なご依頼により点検、精密検査または分解掃除等をしたとき。
6. この保証書のご提示がなかったとき。
7. この保証書に購入年月日、ご購入店名の記載または捺印がなかったとき。
8. この保証書の字句の訂正または書き換えをしたとき。
9. この保証書は日本国内に限り有効といたします。 This warranty is valid only in Japan.

有償修理について

1. 上記の1. ～ 10. に該当する場合、その他有料で修理するときの費用は、別に定める必要部品代および技術料の合計額といたします。

お問い合わせまたはご相談先

この保証書に記載してありますご購入店または、取扱説明書の「サービス工場のご案内」に記載された「お客さま相談係」へお申越してください。

お客さまへのお願い

1. この保証書は、本書によって明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客さまの権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理について、ご不明の場合はご購入店または、当社の「お客さま相談係」等へお問い合わせください。
2. 「取扱説明書」の「修理サービス要領」をよくお読みください。
3. この保証書は紛失されても再発行いたしませんので、大切に保存してください。



【保証責任者】株式会社 アックス ヤマザキ

〒 544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺 3-12-5
TEL:06-6717-5851